

仙台市文化財調査報告書第 335 集

桜ヶ岡公園遺跡

－第3次調査報告書－

2008年12月

仙台市教育委員会

【お詫びと訂正】

本報告書中に、次のような誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

○2ページ「第Ⅰ章 第3節 地理的環境」13行目

(誤) 「発掘調査は平成16年の第1次調査より数えて、」→(正) 「・・・平成19年の・・・」

(誤) 「昨年度の試掘調査を第2次、」→ 削除

仙台市文化財調査報告書第335集

桜ヶ岡公園遺跡

－第3次調査報告書－

2008年12月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財行政に対して、日頃から多大なご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

当市には、悠久の歴史に育まれてきた文化財が数多くあります。中でも、いにしえの人々の暮らしを知るよすがとなる遺跡は、約800か所にものぼります。これらは、私たちのたどってきた道を知ると同時に、将来のあり方を考えていく上で示唆を与えてくれる大切な財産の一つです。当教育委員会といたしましては、市民の皆様のご理解とご協力を賜りながら、これらの貴重な文化財を保存・活用し、次世代へと継承してまいりたいと考えています。

さて本報告書には、西公園（桜ヶ岡公園）の再整備事業に先立ち、平成20年度に実施した桜ヶ岡公園遺跡第3次調査の結果を収録しています。当遺跡は、近世の絵図によると伊達家家臣の屋敷地などに相当し、平成19年度の試掘結果からも、近世遺構の検出が予想されました。

今回の調査では、遺構の残存状況は良好でなかったものの、近世の屋敷地であったことを想像させる陶磁器等の遺物が発見されました。また、今回の調査地点は1945年（昭和20年）の仙台空襲で消失した旧立町小学校の跡地でもあり、空襲時のものと思われる熱を受け溶けたガラスや瓦が出土するなど、桜ヶ岡公園における土地利用の変遷等を示す貴重な資料を得ることができました。

本報告書が、学術研究はもとより市民の皆様にも広く活用され、身近な地域の歴史を知り、文化財への関心を高める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書刊行に際してご協力・ご助言をいただきました多くの方々に、心より深く感謝申し上げます。

平成20年12月

仙台市教育委員会
教育長 荒井 崇

例 言

1. 本書は西公園再整備事業に伴う埋蔵文化財の第3次調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会の指導のもとに、株式会社アーキジオが行った。
3. 報告書の作成及び編集は、仙台市教育委員会文化財課調査係主査 原河英二・文化財教諭 工藤慶次郎の指導のもとに、株式会社アーキジオ伊藤雅和が担当した。
4. 本書の執筆は、原河英二、工藤慶次郎の責任のもとに下記の通り行った。

工藤慶次郎 第Ⅰ章第2節・第4節、第Ⅲ章第3節

阿部将樹 第Ⅱ章第3節 調査区B、No. 25・27・28・31

高野裕二 第Ⅱ章第3節 No. 1・2・3・4・37・38

田中寿明 第Ⅱ章第3節 調査区A、No. 26・29・33、第Ⅲ章第3節

伊藤雅和 その他

5. 調査と報告書の作成にあたり、下記の機関及び個人よりご協力を得た。記して感謝の意を表す次第である（五十音順）。
- 伊藤さやか氏（石川県金沢城調査研究所）、真壁俊一氏、吉田千沙子氏（石川県金沢城調査研究所）
6. 陶磁器に関する産地及び年代等の鑑定は、仙台市教育委員会文化財課仙台城史跡調査室 佐藤 洋が行った。
7. 調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は、仙台市教育委員会が保管している。
8. 色注記に記載している土色は、「新版標準土色帖」（小山・竹原 2004）に基づいて記載した。
9. 本書に用いた地図は、国土地理院発行の1:25,000『仙台北部』の一部を用いた。また、調査区配置図は建設局百年の杜推進部公園課より支給された図面を基に作図した。
10. 調査の際の平面座標基準は、世界測地系平面座標第X系を基にしている。
11. 標高値は、東京湾平均海面高度（T.P.）を示している。
12. 本書で用いた挿図の縮尺は、平面図及び土層図は1/60を、遺物実測図は1/3と基本とした。
13. 遺物の登録は種別ごとに行い、番号の前に以下の略号を付した。

F:軒丸瓦・丸瓦 H:その他の瓦 I:陶器・土師質土器・瓦質土器 J:磁器

N:金属製品 P:土製品 Q:骨角器 X:その他

14. 本書で使用した遺構略号は以下の通りである。

SK:土坑

SD:溝跡

SX:性格不明遺構

SP:ピット

本文目次

序文・例言	
第Ⅰ章 はじめに	
第1節 調査要項	1
第2節 調査に至る経緯と経過	1
第3節 地理的環境	2
第4節 歴史的環境	2
第Ⅱ章 調査の成果	
第1節 調査区の設定	7
第2節 基本層序	7
第3節 各調査区の遺構と遺物	8
第Ⅲ章 まとめ	
第1節 近世－江戸時代－	36
第2節 近代－明治・大正－	36
第3節 近代－昭和－	36

挿図目次

第1図 桜ヶ岡公園遺跡位置図	2
第2図 近世～近代の桜ヶ岡公園変遷	3
第3図 遺跡の位置図	5
第4図 調査区配置図	6
第5図 グリッド配置図	7
第6図 基本層序（模式図）	7

第7図 調査区A (No.32)・No. 30・31・33	
平面図・断面図	9・10
第8図 調査区A SK 1	
平面図・断面図	11
第9図 調査区A SX 2	
平面図・断面図	12
第10図 調査区B (No.11)・No. 12・13	
平面図・断面図	13・14
第11図 調査区C (No. 23)	
平面図・断面図	15・16
第12図 調査区C SK 8～13・SD14	
平面図・断面図	18
第13図 調査区C SX 1・SD15・SK16	
平面図・断面図	19
第14図 調査区No. 14・21	
平面図・断面図	21
第15図 調査区No. 25・26	
平面図・断面図	23
第16図 調査区No. 27・29	
平面図・断面図	25
第17図 調査区No. 34・35・37	
平面図・断面図	27
第18図 出土遺物実測図 (1)	28

表目次

第1表 桜ヶ岡公園と立町小学校の変遷	5
第2表 遺物観察表(1)	34
第3表 遺物観察表(2)	35
第4表 調査区別出土遺物一覧	37

図版目次

図版1 調査区A	41
図版2 調査区B	42
図版3 調査区C	43
図版4 調査区No. 14～27	44
図版5 調査区No. 28～38	45
図版6 出土遺物(1)	46
図版7 出土遺物(2)	47
図版8 出土遺物(3)	48
図版9 出土遺物(4)	49

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査要項

- | | |
|--------|---|
| 1 遺跡名称 | 桜ヶ岡公園遺跡（宮城県遺跡番号01562） |
| 2 所在地 | 宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園地内 |
| 3 調査原因 | 西公園再整備事業 |
| 4 調査主体 | 仙台市教育委員会 |
| 5 調査担当 | 仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 調査係 主査 原河 英二
仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 調査係 主事 大久保弥生
仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 調査係 文化財教諭 工藤慶次郎 |
| 6 調査機関 | 株式会社アーキジオ 主任調査員 伊藤 雅和
株式会社アーキジオ 調査員 阿部 将樹
株式会社アーキジオ 調査員 高野 裕二
株式会社アーキジオ 調査補助員 田中 寿明 |
| 7 調査期間 | 平成20年6月16日～平成20年9月12日 |
| 8 調査面積 | 調査対象面積 15,000m ²
調査面積 740.8m ² |

第2節 調査に至る経緯と経過

今回の発掘調査は、宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園地内における西公園再整備事業に伴い実施したものである。桜ヶ岡公園（西公園）は、明治7年（1874）につくられた、仙台市で最初の近代的な公園である（表1）。様々な催し物の会場や花見の行楽地などとして広く市民に親しまれてきたが、園内施設の老朽化や高速鉄道東西線事業計画の予定路線内に入ることなどから、仙台市建設局百年の杜推進部公園課では、平成19年度から28年度にかけて、段階的に再整備していくことにした。

これに先立つ平成15年度より、高速鉄道東西線事業計画に伴い、当教育委員会と仙台市交通局との間で本格的な協議を行い、計画予定線内における周知の遺跡及び遺跡外の状況把握のために、確認調査及び試掘調査をまず実施し、その結果を踏まえて本調査を進めていくことなどを確認した。

これを受けて当教育委員会は、西公園地区では、平成16年度に西公園駅（仮称）隣接地の試掘調査を実施した。その結果、近世の遺構が存在する可能性を示す、近世から幕末・明治にかけての陶磁器・瓦類が出土したため、平成19年1月に「桜ヶ岡公園遺跡」として遺跡登録した。

平成19～20年には、高速鉄道東西線路線・西公園駅舎工事に伴う調査が行われた。（第1次調査）また平成19年には、桜岡大神宮北側の旧野球場を中心とした公園整備に伴い、公園課と協議の上で、17か所・約171m²のトレンチを設定して調査を行った。（第2次調査）その結果、絵図に描かれた近世の武家屋敷に関わるとみられる遺構・遺物が検出され、本遺跡の遺構残存状態は概ね良好であると考えられた。

こうした流れを受けて平成20年度は、公園課と協議の上、旧野球場のうち掘削深度が30cmを超える場所を調査対象とし本調査を実施することにした。なお掘削は、工事の計画掘削深度までとした。調査は平成20年6月16日より、北側の調査区Aから開始した。以後小規模な調査区35箇所の調査を隨時行いながら、南側（桜岡大神宮脇）の調査区B、次いで東側（西公園通側）の調査区Cと調査を進めた。期間中、御譜代町の祭りや仙台七夕花火祭の会場として旧野球場が使われたため、安全策を講じた上で調査を中断した。公園課・文化財課による立会いで埋め戻し状況等を確認した後、平成20年9月12日に野外調査を終了した。

第3節 地理的環境

桜ヶ岡公園遺跡は、仙台市青葉区桜ヶ岡公園（西公園）内に所在する近世の遺跡である。地形的には広瀬川によって形成された河岸段丘である中町段丘上と下町段丘上に位置する。調査区の西側は比高差10m以上の段丘崖となっており、この段丘崖が中町段丘と下町段丘との境となる。今回の発掘調査対象地は全て中町段丘上に位置し、標高は約44mである。

桜ヶ岡公園遺跡は平成19年（2007）に遺跡登録された遺跡である。平成16年の高速鉄道東西線建設事業を契機として西公園駅（仮称）隣接地の発掘調査が実施され、調査区周辺に近世の遺構が確認されたことによる。

発掘調査は平成16年の第1次調査より数えて、昨年度の試掘調査を第2次、今回の調査を第3次調査とする。



第1図 桜ヶ岡公園遺跡位置図

第4節 歴史的環境

近世 - 江戸時代 -

慶長5年（1600）、初代仙台藩主伊達政宗によって仙台城縄張りが行われ、翌慶長6年（1601）から築城が開始された。仙台城下の土地利用については、残されている詳細な絵図からその変遷を知ることができる。そこで絵図を元に今回の調査対象地となる中町段丘上での変遷を概観する（第2図）。

正保2・3年（1645・1646）の奥州仙台城絵図は屋敷地が表現された現存する最も古い絵図である。調査地は全て「侍屋敷」として表現されており、西側に規模の大きな方形の2区画と東側に道路に面した南北に長い区画が記載される。この南北に長い区画については、以降の絵図では小割された地割りが記載されることから、小規模な屋敷の表現は省略されているようである。

寛文4年（1664）の仙台城下絵図では、西側の大きな2区画の北側に「伊達安房殿」、南側に「片倉小十郎」と記載される屋敷地と、東側には短冊形に小割りされた小規模な7区画の屋敷地が記載される。伊達安房とは、亘理2万4千石の亘理伊達家で、伊達政宗の叔父である伊達実元を祖とし、代々「藤五郎」の通り名と「安房守」の官位を称し、藩の家格は一門衆である。

元禄4・5年（1691・1692）の仙台城下五釐卦絵図では、寛文4年仙台城下絵図で「片倉小十郎」の屋敷は延宝5年（1677）に川内に移転しており、その後に入った「津田民部」の名前が記載される。東側の小規模な区画は6区画に減少している。

宝暦・明和年間（1751～1772）の仙台城下絵図では、「津田民部」の屋敷は「古内要人」の屋敷となり、東側の小規模な区画は、5区画へと更に減じ、北より2番目と3番目の屋敷の間に道が表現される。

天明6年・寛政元年（1786～1789）の仙台城下絵図では、伊達安房の屋敷地が東側へと一部拡張する他はほぼ共通した表現で記載される。

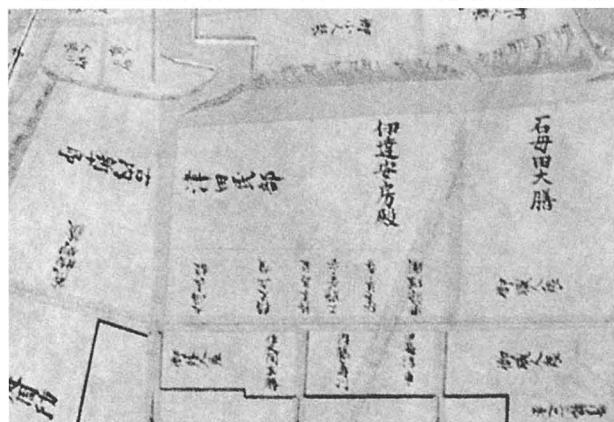
安政3～6年（1856～1859）の安政補正改革仙府絵図では、東側の小規模な区画は姿を消し、「伊達藤五郎」・「古内左近介」・「大内縫殿」の3つの屋敷地へと再編されている。



1. 奥州仙台城絵図(正保2・3年(1645・1646))(財)斎藤報恩会蔵



2. 仙台城下絵図(寛文4年(1664))宮城県図書館蔵



3. 仙台城下五釐卦絵図(元禄4・5年(1691・1692))(財)斎藤報恩会蔵



4. 仙台城下絵図(宝暦・明和年間(1751~1772))(財)斎藤報恩会蔵



5. 仙台城下絵図(天明6年・寛政元年(1786~1789))仙台市博物館蔵

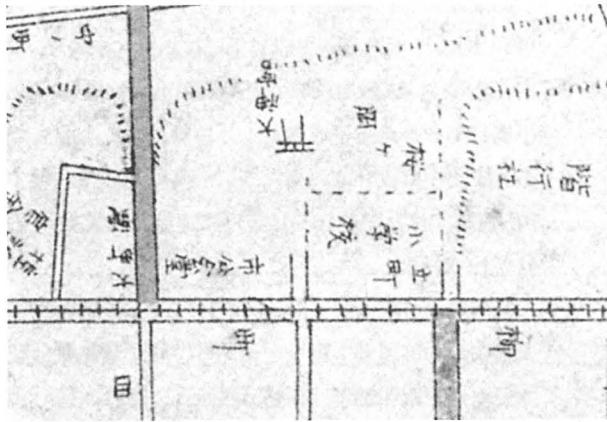


6. 安政補正改革仙府絵図(安政3~6年(1856~1859))第二師団司令部蔵



7. 仙台市測量全図(明治26年(1893))仙台市歴史民俗資料館蔵

第2図 近世～近代の桜ヶ岡公園変遷^(注1)



8. 仙臺市土地實典索引(大正15年(1926))川名文明堂発行

以上が江戸時代の桜ヶ岡公園遺跡内の様相であるが、東側の小区画が頻繁に再編されたのに対し、亘理伊達家の屋敷地は少なくとも寛文4年以降、江戸時代を通じてその位置を踏襲しており、幕末にかけて東側の小区画の屋敷地を取り込んで東側へと拡張していった状況を示す。また、『伊達治家記録』によると、寛永11年（1634）に伊達安房宅より出火があり肴町に類焼していることから、正保2・3年の絵図に記載されている侍屋敷についても亘理伊達家の屋敷地であったと考えられる。

近代～現代 - 明治～昭和 -

戊辰戦争を経て、明治8年（1875）宮城県が伊達安房・古内左近介・大内縫殿の3邸を収容し、桜ヶ岡公園として整備した。それより前の明治5年（1872）には伊勢堂山（現在の青葉区千代田町）から現在地の北東に神明宮（現・桜岡大神宮）が移転、明治19年（1886）和洋料理店の掘翠館建設、明治27年（1894）立町高等尋常小学校（現・仙台市立立町小学校）が竣工移転、昭和3年（1928）には東北産業博覧会の第2会場として使われるなど、桜ヶ岡公園は様々な役割を果たしてきた。昭和20年（1945）7月10日の仙台空襲で園内のほとんどの施設が焼失後、集団公営住宅地として利用されたこともあり、一時公園としての機能を失っていたが、その後の戦災復興都市計画によって公園として再生され、現在に至っている。

周辺の遺跡（第3図）

桜ヶ岡公園遺跡の周辺には、仙台城跡、川内A遺跡、川内B遺跡、経ヶ峯伊達家墓所などの遺跡がある。

仙台城跡（第3図4）は青葉山丘陵の縁辺部及び広瀬川の東側段丘上、標高40～140mに立地する城郭で、別名「青葉城」とも称される。これまでに本丸石垣の解体修復や二の丸跡・三の丸などの発掘調査が行われている。

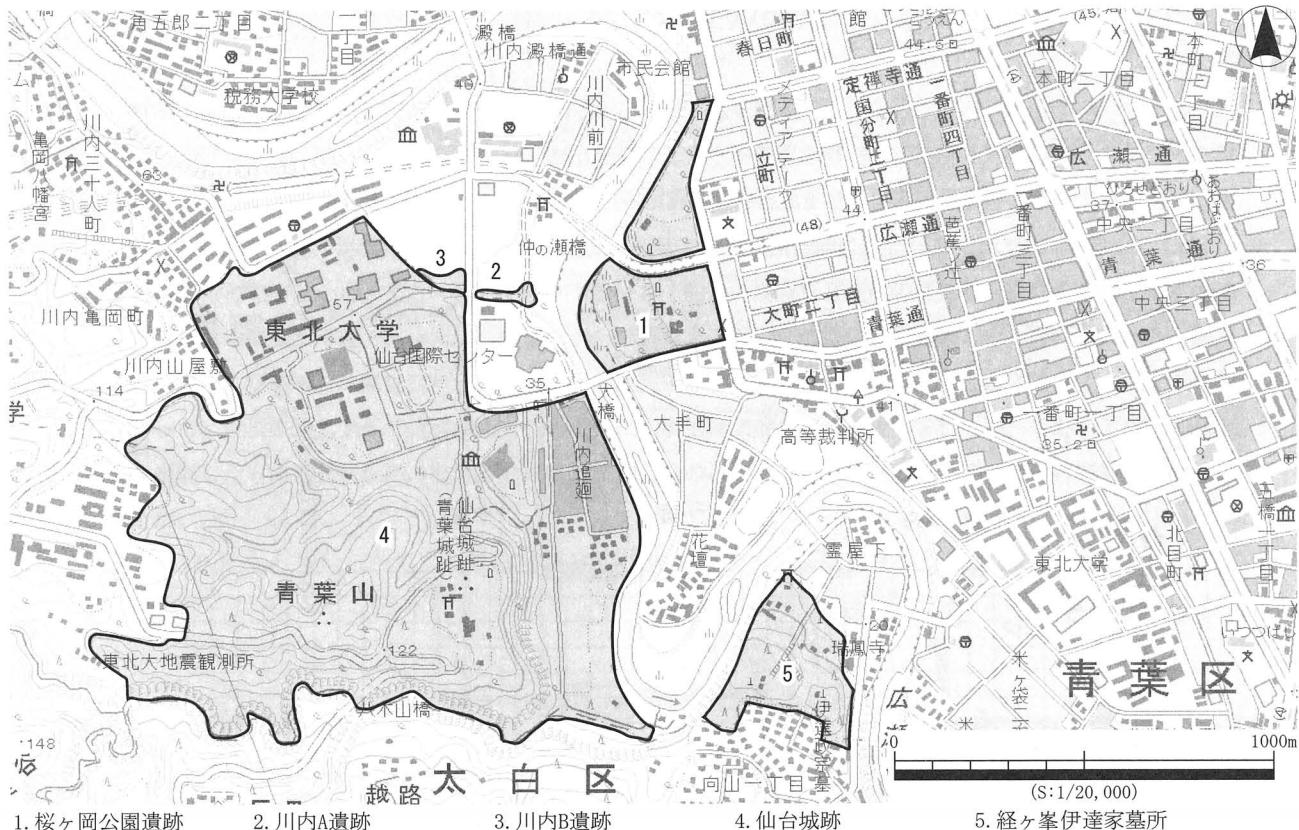
本丸石垣解体修理では、3時期の石垣の変遷が明らかにされており、Ⅰ期が元和2年（1616）の地震により損壊した築城期、Ⅱ期が正保3年（1646）や寛文8年（1668）の地震で損壊した石垣、そして現存するⅢ期の石垣は基部の整地層出土遺物により17世紀第3四半期のものである。

本丸の北東に位置する二の丸跡の調査では、元禄年間（1688～1704）の二の丸北側の西屋敷を取り込む大規模な拡張工事や文化元年（1804）の落雷による殿舎の復旧工事などの文献記録を裏付ける盛土や焼土・炭層などが検出されている。

三の丸跡の調査では、下層より当初あったとされる伊達政宗の屋敷跡と考えられる小規模な礎石建物や池跡が確認され、上層からはその後「藏屋敷」や「御米蔵」との絵図の記載を裏付けるように屋敷地の区画溝より米俵に付けた荷札が多く出土している。

高速鉄道東西線建設事業に伴い調査が行われ、新しく登録されたのが川内A遺跡（第3図2）と川内B遺跡（第3図3）である。平成16年には川内A遺跡を、平成20年には川内B遺跡をそれぞれ新たに遺跡登録した。川内A遺跡は、広瀬川流域の河岸段丘上に位置し、仙台城二の丸（現東北大大学川内キャンパス）の北東にあたる。平成17年6月から平成18年1月に行われた本調査では、建物跡や縄文土器・近世の陶磁器などが発見されている。また中町段丘面にあたり、上町段丘面に立地する仙台城跡（二の丸北方武家屋敷跡）の東側に位置する川内B遺跡では、平成16～19年度に実施した試掘調査で、縄文土器や武家屋敷跡と見られる礎石建物跡などが発見されている。

経ヶ峯伊達家墓所（第3図5）には、初代仙台藩主伊達政宗を祀った靈屋瑞鳳殿や、二代忠宗の靈屋感仙殿、三代綱宗の靈屋善応殿などがあり、特に瑞鳳殿は江戸時代初期の桃山様式を伝えるものとして国宝に指定されていたが、昭和20年（1945）の仙台空襲により、感仙殿・善応殿と共に焼失した。昭和49～60年（1974～1985）にかけて墓所の再建が行われ、その際の発掘調査では、三藩主の遺骸と共に、太刀や文箱、装飾品などの副葬品が確認されている。



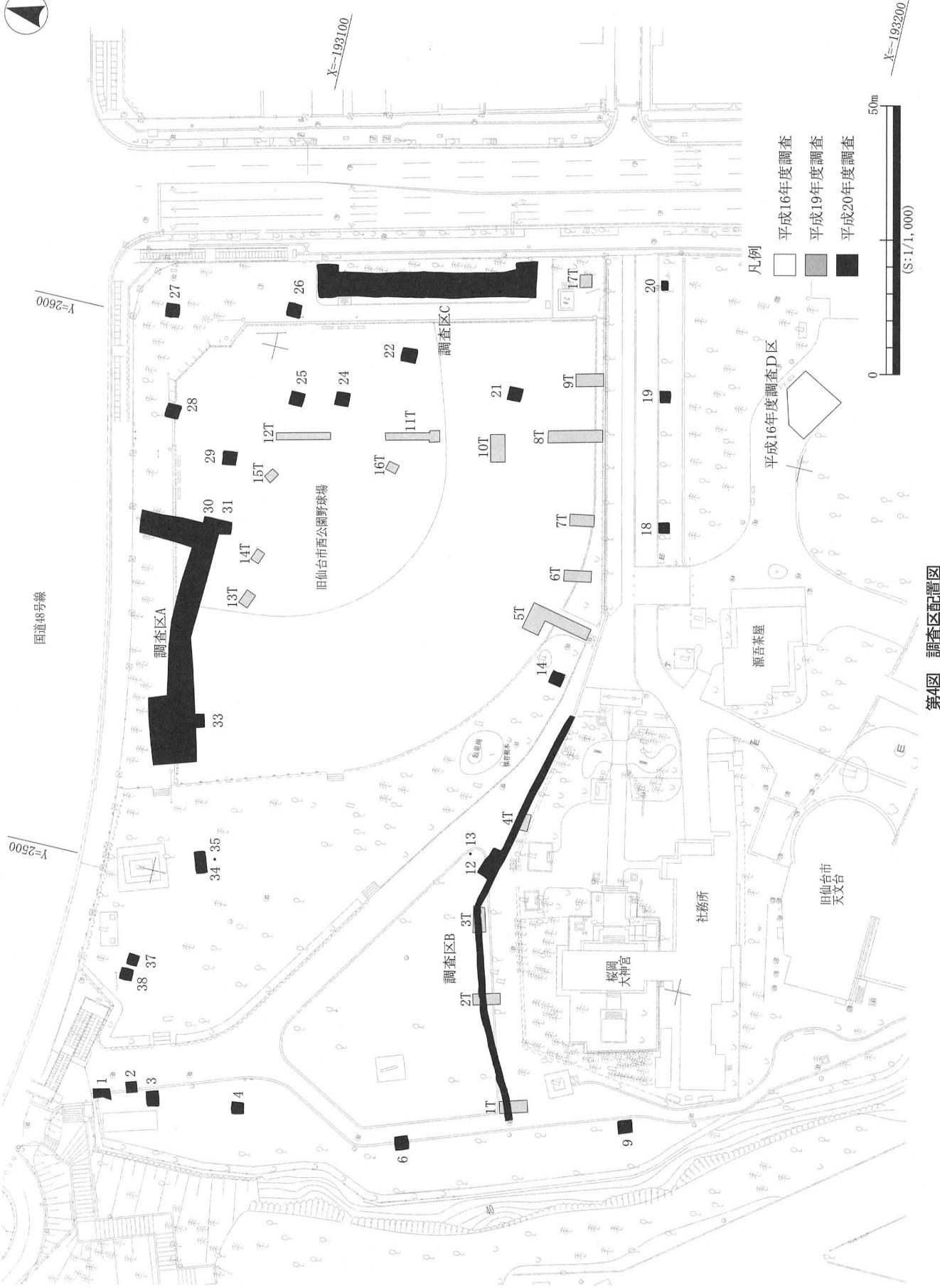
第3図 遺跡の位置図

	桜ヶ岡公園	立町小学校
明治5年	伊勢堂山にあった神明宮を現在地の北東に移転	
明治6年		7月7日 立町330番地に「第7番小学校」として開校
明治7年	宮城県が伊達安房、古内左近之助、大内縫殿の3宅地5,447坪を収容し「桜ヶ岡公園」として開園 神明宮、県社となり、「桜岡大神宮」と改称	
明治8年		5月 建坪28坪の二階建て校舎を新築
明治9年	宮城県博覧会開催	4月 「琢玉小学校」と改称
明治12年		「立町小学校」と改称、21坪2階建て校舎を増築し肴町分校を廃止
明治13年	勧業博覧会開催	
明治14年	県営の官城勧工場を建設 後に民間に移管し東一番丁へ移転	
明治15年	劇場吉岡座を園内北部に建設→後、松島座と改め東一番丁へ移転	
明治19年	和洋料理店掘翠館を園内南部に建設	本校舎内に商業夜学校を設ける 9月「立町尋常小学校」と改称
明治20年	源吾茶屋園内西部に開店	「立町高等尋常小学校」と改称
明治23年	10月 桜ヶ岡公園は仙台市の所有となる	
明治24年	3月 市会で立町小学校を公園地内大神宮境内に移すことを決議	1月19日夜 火災により焼失
明治27年		元柳町88番地(桜ヶ岡公園内)に新築移転
明治29年		9月 校内にて簡易商業学校(現仙台商業高等学校)創立始業式 12月 簡易商業学校は片平丁に移転
明治42年	仙台市が掘翠館を買収し仙台市公会堂として整備	
大正5年	公会堂の北隣に洋館を増築	
大正15年	桜岡大神宮を現在の地に遷宮	
昭和3年	東北産業博覧会開催、朝鮮館、動物園、各種運動具、噴水池等建設、源吾茶屋現在地へと移転	
昭和7年	園内に花壇と排水路を設け、草花灌木を植栽	
昭和8年	第二師団凱旋記念満蒙軍事博覧会開催	
昭和15年	興亞時局博覧会開催	
昭和20年	7月10日 大空襲により桜岡大神宮と朝鮮館等を残して焼失、集団公営住宅建築敷地として園内を利用	7月10日 仙台空襲により焼失
昭和24年	集団公営住宅撤去と整理及び園内2300坪の整地工事	3月 現在地に新築移転

第1表 桜ヶ岡公園と立町小学校の変遷



国道48号線

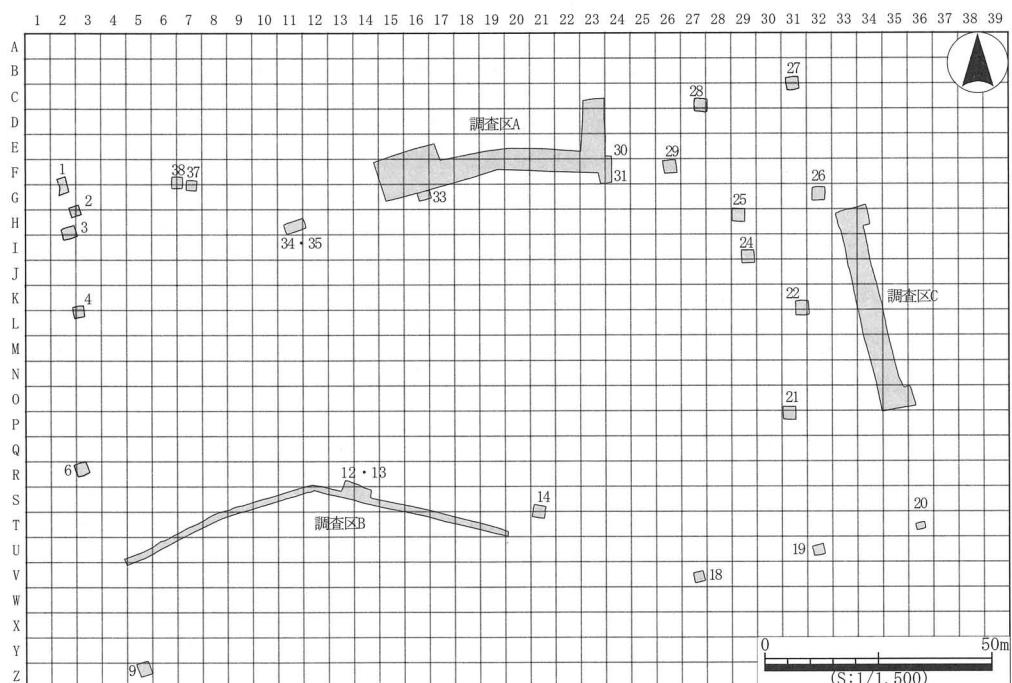


第4図 調査区配置図

第Ⅱ章 調査の成果

第1節 調査区の設定

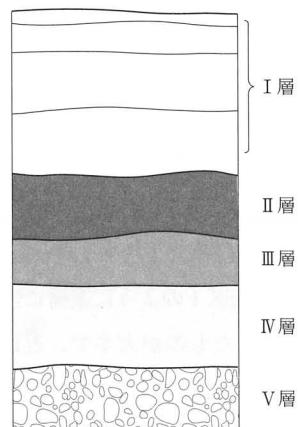
調査地は桜ヶ岡公園内に位置し、2.5m×2.5mを基本とする小規模な調査区35箇所と規模の大きな調査区3箇所の計38箇所が調査対象地となる。これらの調査区にはNo.1～No.38までの調査区名が付与されており、この番号に従った。ただし、規模の大きな調査区は便宜上北側より調査開始順に調査区A（No.32）、調査区B（No.11）、調査区C（No.23）とした。また、街灯やハンドホール・樹木の植栽など既設の構造物と調査位置が重複或いは隣接するため調査不可能であったり、弱電用ケーブルや水道管などの埋設物を確認したため、その部分を掘り残した調査区があった。調査はバックホウにより近代以降の整地土や搅乱を除去し、近世整地土上面まで掘削を行った。近世整地土上面で遺構検出を行った後に工事掘削深度まで更に掘削を行った。なお、工事掘削深度まで掘削したもの近代以降の整地土や搅乱を確認したのみの調査区については、第3節での図面の掲載は省略した。



第5図 グリッド配置図

第2節 基本層序

今回の調査区における基本層序は、近代以降の整地土、掘り込み等は全てI層として一括し^(注2)、近世の整地土をII層、以下、段丘の形成に伴うと考えられる黒色粘土質シルトをIII層、明黄褐色粘土質シルトをIV層、黄褐色礫層をV層とした。II層を確認したのは調査区C及びNo.14・21・27の4地点のみである。それ以外の調査区では旧立町小学校や西公園野球場などの基礎により著しく削平を受けており、昨年度の2次調査とは異なりII層の残存状況は良くなかった。II層を確認した調査区の基本層序は第6図の通りである。



第6図 基本層序（模式図）

第3節 各調査区の遺構と遺物

調査区A (No.30・31・32) (第7図 図版1-1-2)

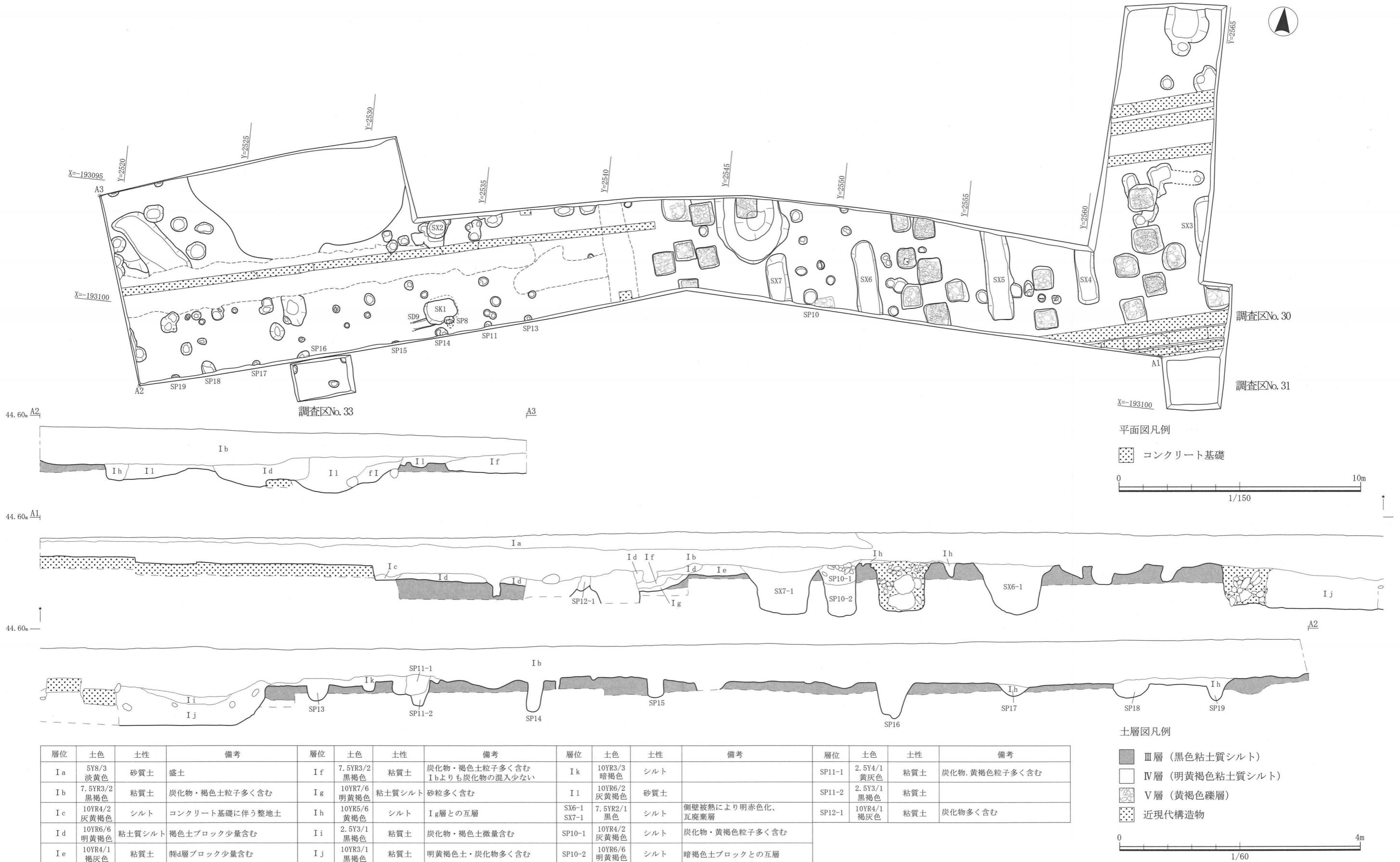
トイレ・給排水管設置計画に伴う調査である。調査区は東西45m、南北は西側が8.5m、東端が14.5m、中央は4.0～5.0mの不整形な凹形で、調査面積は305m²である。調査対象地は旧立町小学校校舎や西公園野球場の跡地であることから、近代以降の掠乱が予想された。表土下0.4～0.8mでⅢ・Ⅳ層に達し、Ⅱ層は確認できなかった。Ⅲ層上面では、旧立町小学校校舎の基礎跡や西公園野球場に伴うコンクリート基礎、戦時中の待避所と思われる溝(SX 3～7)など近代以降に構築されたものが大半で、近世に遡る遺構として土坑1基と不明遺構1基を確認したのみである。その他、ピットなどの小規模な遺構や土坑などを数多く確認したが、SP14～16のように埋土が1b層と共通することや、遺物が出土しなかったことから、近世と判断できたものは無い。

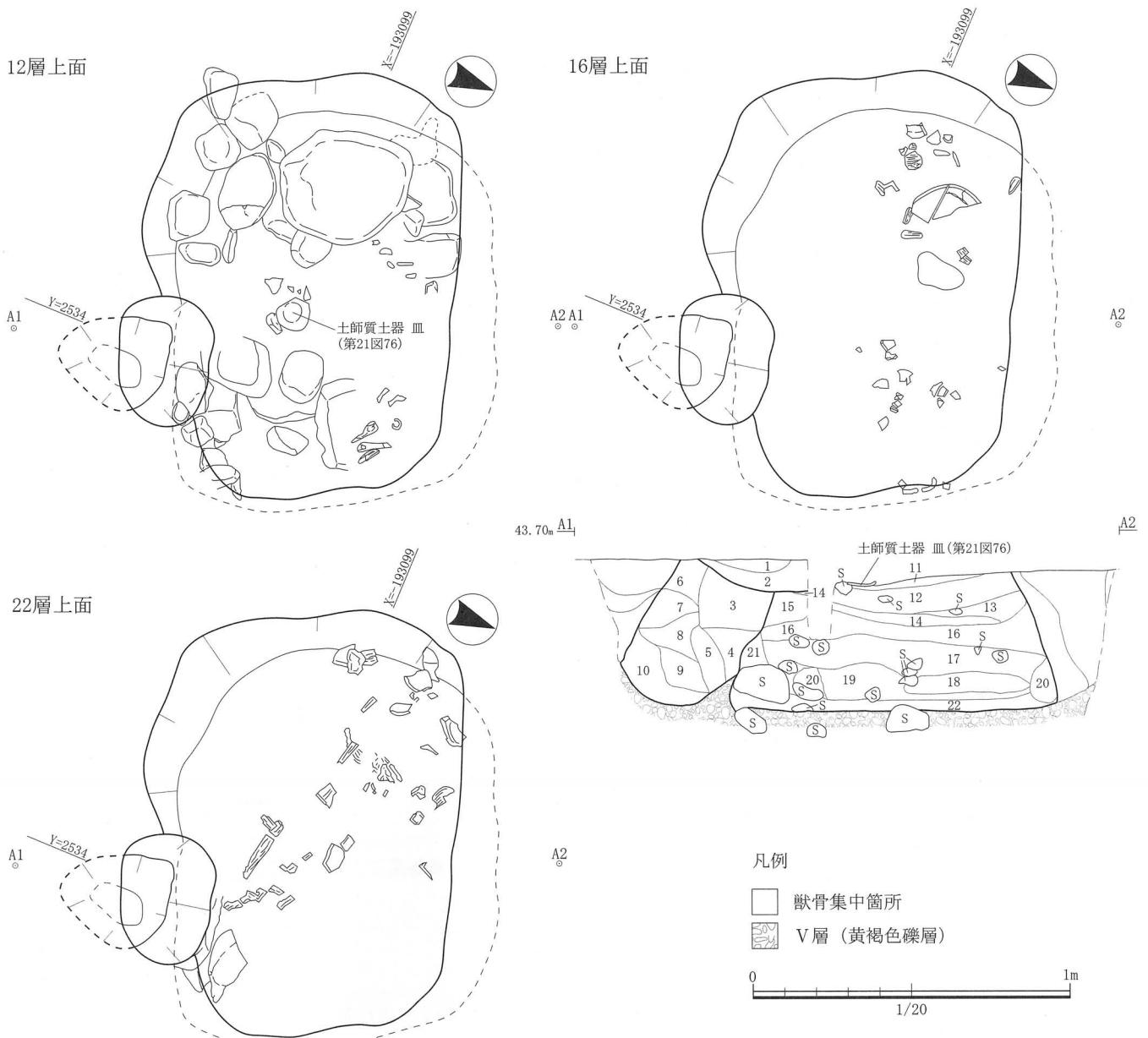
SK1 (第8図 図版1-4～6) はF17グリッドに位置する。SP 8・SD 9と重複し、SK 1が最も古い。平面形態は1.55m×1.30mの隅丸長方形で、土坑底部も1.50m×1.02mとなっており開口部とほぼ同様の規模を呈する。壁面は北壁側は袋状にえぐり込まれており、西壁と南壁は垂直気味に立ち上がる。東壁は若干底部がえぐり込むように立ち上がる。埋土はSP 8・SP 9を含め22層に分層したが、SK 1の埋土は12層に分かれる。覆土上位から底面にかけて多量の大小の礫が混入し、人為堆積と考えられる。遺物は最上面よりほぼ完形の土師質土器皿が出土した他、陶器・鉄製品・銅製品の細片・漆器塗膜・骨などが出土した。骨はいずれも獸骨と考えられ、骨粉状のものやある程度体型が想定される状態の良好なもの、腐食して微細化したものなど多様である。骨片は、埋土中の各層より出土したが、特に底面から約0.1m直上の22層上面よりまとめて出土した。脚部や頭骨の一部が複数出土しており、二体以上の遺骸をそのまま埋めたものと考えられる。遺構の正確な時期・用途は不明だが、土師質土器皿の出土より判断して近世と考えられる。

SX2 (第9図 図版1-7) はF17グリッドに位置する。平面形態は1.0m×0.9mのほぼ円形で、深さは1.35mである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、埋土は7層に分かれる。黒褐色シルト～粘土質シルトを基調とし、小型～中型の礫やⅣ層からの由来と考えられる明黄褐色土ブロックが多く含まれる。SX 2の周囲ではⅢ層は確認できず、また遺構検出面ではバックホウの爪跡が確認されたことから、現代の削平を受けており、本来の掘り込み面は上位からの掘り込みであり、当初の深さは1.35m以上と考えられる。井戸跡の可能性も考えられるが、構築された場所より判断すると下町段丘面との段丘崖まで約80mであり湧水は期待できないこと、また、埋土の観察では水を溜めるような桶等の存在やその抜き取り痕も確認できることから、用途不明の土坑と判断した。出土遺物は認められず、帰属時期は不明である。

SX3～SX7 (第7図 図版1-3) はEF20～23グリッドに位置する。SX 3・6・7は北側、SX 4・5は南側の一部を確認したのみで、調査区外へと続き、全体を確認した遺構は無い。平面形態は、幅0.9～1.1mの隅丸長方形で、深さは0.8m～1.1mである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、ほぼ全面が被熱により赤橙色に変色する。埋土は遺構内の全体に多量の瓦が混入し、底面には炭化物と灰が堆積する。遺物は多量の瓦に混じって釘や鉄線などの金属製品、ガラス片、碍子などが出土し、昭和20年の仙台空襲に関連するものと考えられる。また、SX 2とSX 3・SX 4とSX 5の間隔が芯々の距離で約3.6m、SX 3とSX 4・SX 5とSX 6の間隔が約5.2mとなっていることから、2基を1対として計画的に配置されたと考えられる。

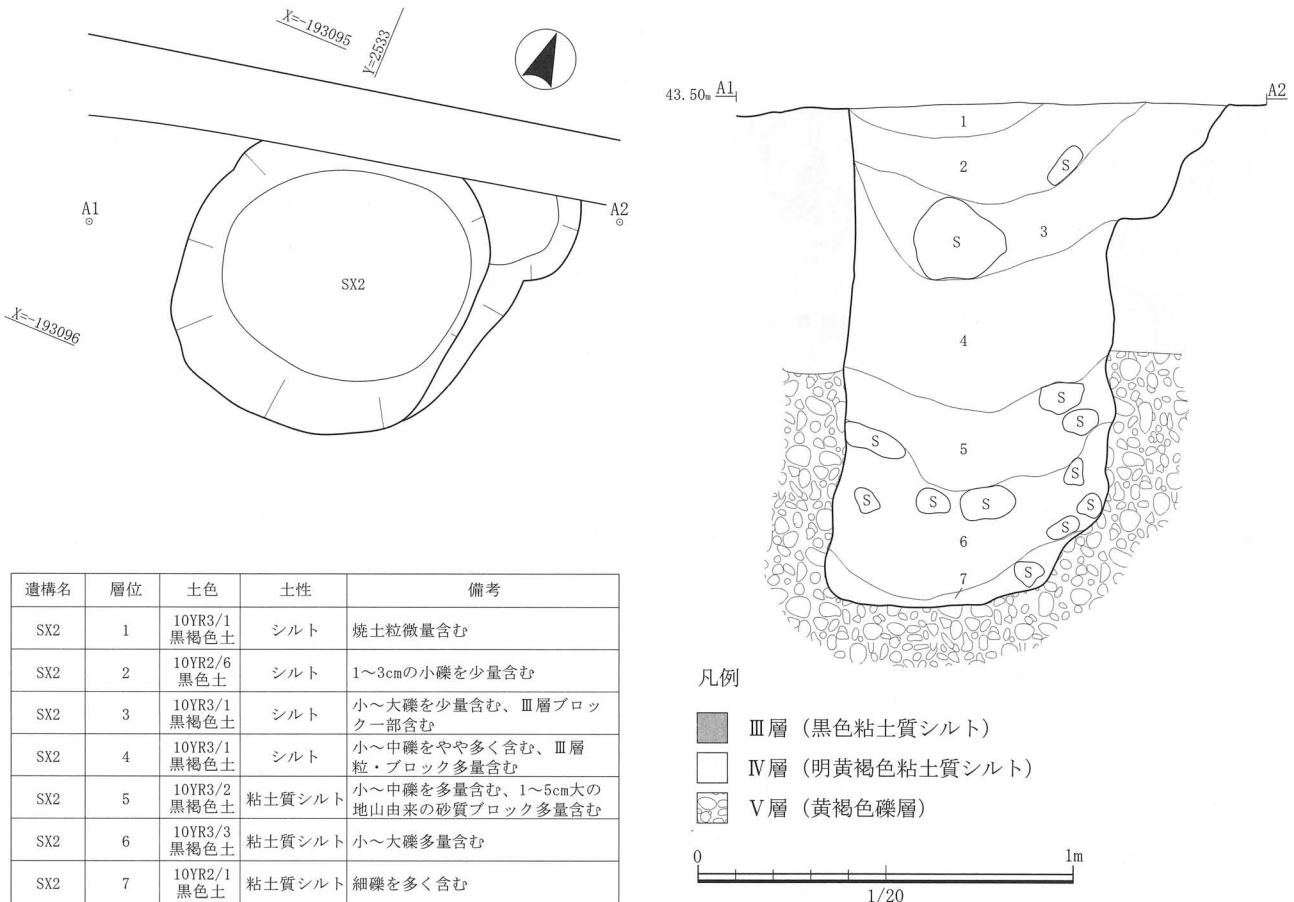
遺物はSK 1のように遺構に伴って出土した他は、バックホウによる表土除去あるいは遺構検出時などⅠ層より出土したものが大半で、近世～近代の磁器・陶器・瓦質土器・ガラス・金属製品などが出土した(第21図73～76)。





遺構名	層位	土色	土性	備考	遺構名	層位	土色	土性	備考
SD9	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土微量混入、径0.1~0.3cm 大の礫多量含む、炭化物焼土微量含む	SK1	12	10YR4/2 灰黃褐色	シルト質砂	炭化物・焼土・径0.2~2cm大の礫多量 含む
SD9	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物・焼土微量混入、径0.2~1cm大 の礫少量含む	SK1	13	10YR4/2 灰黃褐色	シルト質砂	鉄分沈着
SP8	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト		SK1	14	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	繊維状の有機物層状に堆積
SP8	4	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂		SK1	15	10YR3/2 黒褐色	シルト	
SP8	5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト		SK1	16	10YR4/2 灰黃褐色	粘質土	炭化物多量含む
SP8	6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト		SK1	17	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	炭化物多量含む
SP8	7	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト		SK1	18	10YR4/2 灰黃褐色	シルト	径1~10cm大の礫多量含む、獣骨多量 含む
SP8	8	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	7層に酷似	SK1	19	10YR3/2 黒褐色	粘質土	獣骨堆積層
SP8	9	10YR5/3 にぶい赤褐色	砂		SK1	20	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂	黒褐色土ブロック多量含む
SP8	10	2.5Y4/4 オリーブ褐色	砂質土		SK1	21	10YR3/3 暗褐色	粘質土	炭化物・焼土少量含む
SK1	11	10YR3/2 黒褐色	シルト		SK1	22	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質土	明黄褐色砂多量含む

第8図 調査区A SK1平面図・断面図



第9図 調査区A SX2平面図・断面図

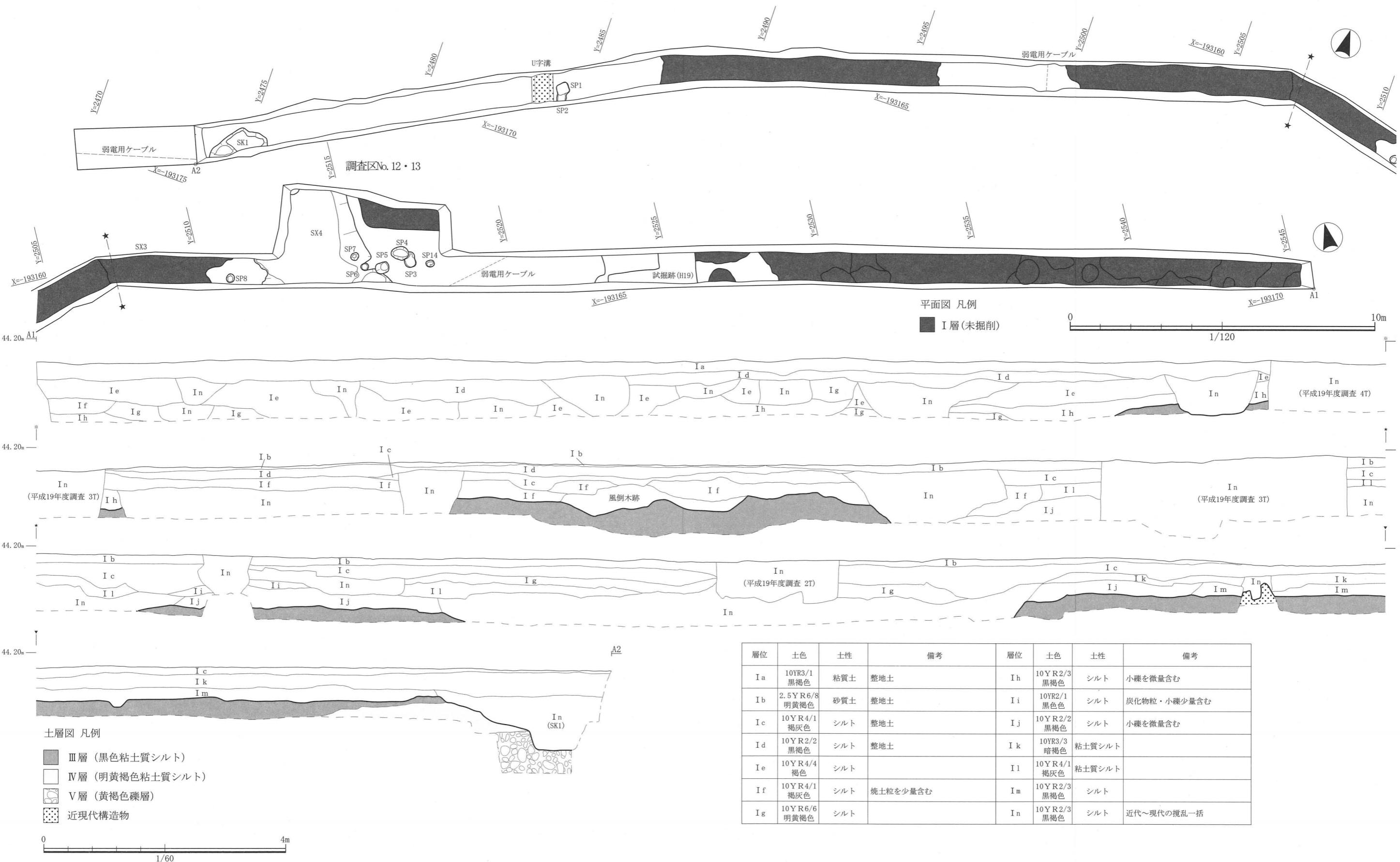
調査区B (No.11) (第10図 図版2-1~4)

排水管設置計画に伴う調査で、調査区は幅1.0m×長さ80.0mでくの字に折れ曲がり、調査面積は80m²である。桜ヶ岡大神宮と桜ヶ岡公園との境に位置する。当初計画では、フェンスに沿って調査区が設定されていたが、調査の安全を確保するために、公園課との協議の上、フェンスから約0.5mの控えを取り北側へと調査区を移設した。

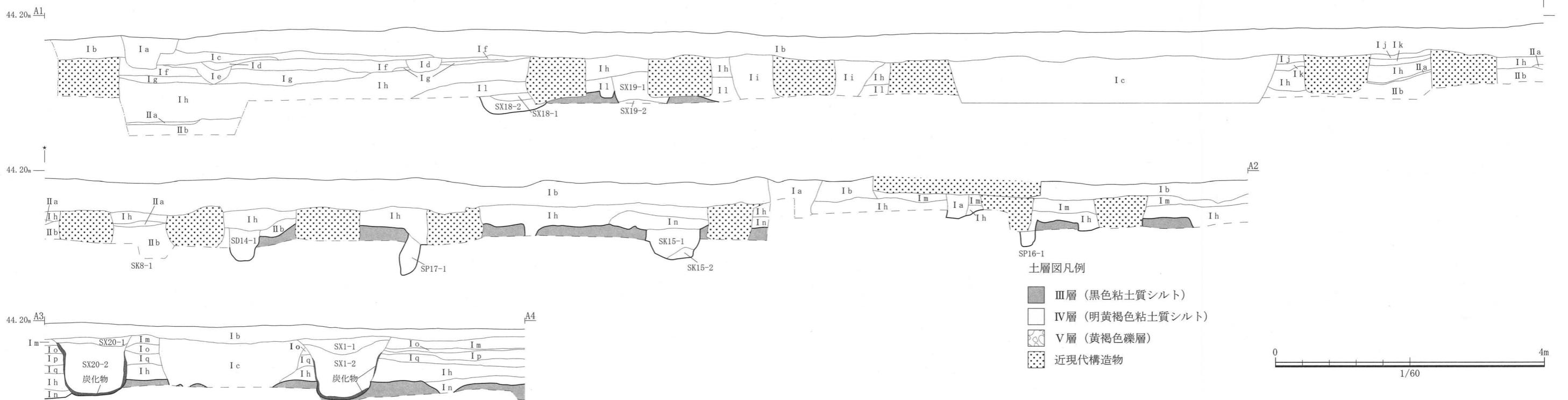
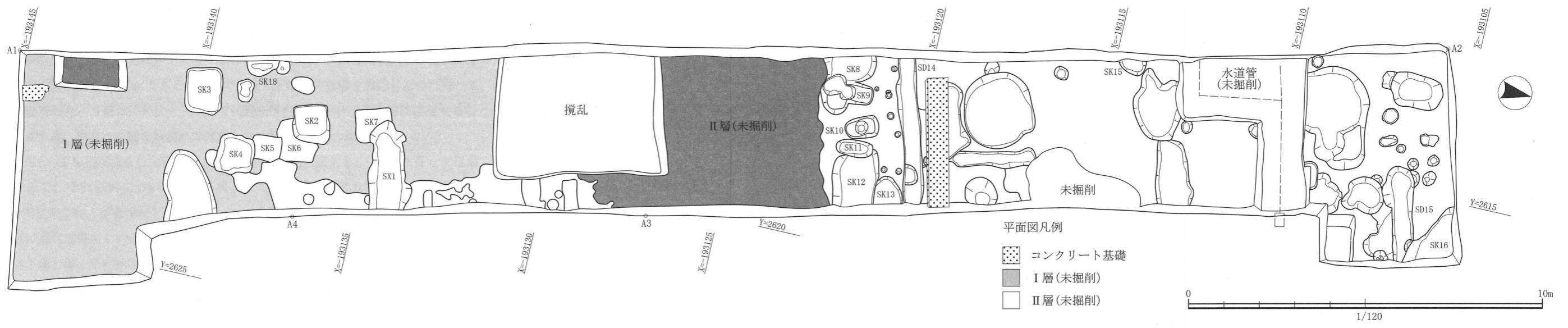
バックホウにより表土下0.4m~0.8mまで掘削を行い、一部でⅢ層を確認したが、調査区の大半は近代以降の搅乱がⅢ層を掘り込んでおり、Ⅱ層は確認することが出来なかった。また、U5・S10・14グリッドでは、弱電用ケーブルを確認したため、この部分を避けて調査を行った。

S15グリッド以東では、工事掘削深度となる表土下1.0mまで掘削を行ったが、Ⅱ層以下を確認することは出来ず、近代以降の搅乱が更に続くことから、これ以上の掘削は行わなかった。調査区の西側～中央付近にかけて数基のピットや土坑を確認したが、全て近代以降である。

遺物は「仙台市公会堂」・「大正4年11月奉賀御即位記念」・「メヌマポマード」などの記念名や製品名、「瀬304」・「岐514」など統制番号の入った磁器・陶器・ガラスがⅠ層より出土した他、S12グリッドでは調査区北壁でⅠf層を切る土坑よりガラス片や金属製品と共に多数の稻荷狐の土製品（第22図 77・78 図版9）が発見された。これらの遺物に混じって、近世の磁器や陶器・瓦質土器が少量出土した。



第10図 調査区B(No. 11)・No. 12・13平面図・断面図



層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
I a	2.5Y3/2 黒褐色	粘質土	水道管の埋土、戦後	I g	2.5Y4/3 オリーブ褐色土	シルト	良く縮まる	I m	2.5Y4/1 黄灰色	粘質土	礫少量含む	II b	2.5Y3/1 黒褐色	粘質土	炭化物少量含む	SP17-1	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	径1~3cm程度の小礫多量に含む
I b	2.5Y5/1 黄灰色	粘質土	野球場整備に伴う盛土	I h	10YR4/1 灰褐色	粘質土	調査区の全体に認められる立町小学校に伴う整地層か	I n	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質土	I h層よりも硬く縮まる	SX1-1 SX20-1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	瓦廃棄層	SD14-1	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質	径3~5cm大の礫少量、炭化物微量含む
I c	5Y6/4 オリーブ黄色	砂質土	コンクリート廃棄層、戦後	I i	2.5Y5/1 黄灰色	粘質土	I h層を切り、立町小学校基礎により切られる貝多く含む	I o	2.5Y6/6 明黄褐色	砂質土		SX1-2 SX20-2	7.5YR2/1 黒色	シルト	側壁被熱により明赤色化、瓦廃棄層	SK18-1	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	径1~3cm程度の小礫多量に含む
I d	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質土	炭化物少量含む、一部に被熱	I j	10YR4/2 灰黄褐色	粘質土	炭化物少量含む	I p	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質土		SK15-1	2.5Y3/2 黒褐色	粘質土		SK18-2	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	SX3-1層よりも暗い
I e	10YR4/2 灰黄褐色	粘質土		I k	2.5Y4/1 黄灰色	粘質土	I j層よりも明るい	I q	10YR4/2 灰黄褐色	粘質土	I h層よりも明るい	SK15-2	2.5Y3/2 黒褐色	粘質土	III層ブロック多量含む	SK19-1	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む
I f	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む	I l	5Y3/2 オリーブ黑色	粘質土		II a	2.5Y7/6 明黄褐色	粘質土	II b層粒状に含むSK8以南で断続的に認められる	SP16-1	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト		SD19-2	2.5Y3/2 黒褐色	粘土質シルト	

第11図 調査区C(No. 23) 平面図・断面図

調査区C (No.23) (第11図 図版3-1・2)

トイレ給排水管設置計画に伴う調査である。南北41.0m、東西は南北両端が6.0m、それ以外が4.0mの凹字状の調査区で、調査面積は200m²である。北側では表土下0.5mでⅢ層を確認したのに対して、南側では約1.0mで一部Ⅲ層を確認した。Ⅱ層はKグリッド以南では調査区西壁において断続的に確認することができ、南側へと緩やかに傾斜する。調査区南端の断割りで確認したⅡ層とは0.6mの比高差となる。

調査区Cの工事掘削深度は0.9mであることから、0.9mを超えるK33・34グリッド以南では一部の遺構掘削を行ったのみで、それ以外については遺構検出までに留めた。これにより、K・L34・35グリッドではⅡ層を、M34・35以南ではⅠ層を検出した。

遺構は近代以降のものが大半であり、近世の遺構はK33・34グリッドで溝1条と土坑6基、G・H34グリッドで土坑1基と溝1条を確認した。これらは18世紀後葉～19世紀初頭のものと考えられる。

SX1 (第13図 図版3-8) はM35グリッドで検出した。幅1.1m～1.3m、長さ3.0m以上で調査区外へと続く。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、被熱により赤橙色に変色する。埋土は遺構内の全体に多量の瓦が混入し、底面には蓮状の炭化物と灰層が堆積する。SX1の北側2.1mでは搅乱及び樹木の根により搅乱されたもう1基の性格不明遺構を東壁で確認した (第11図 A3-A4間土層図参照)。

SK2～7 (第11図) はN34・35グリッド周辺で検出した方形土坑である。一辺0.5～0.6m四方のやや不整形な方形土坑で、Ⅰ層中で確認した。SK7はSX1に切られる。これらの土坑のうち、SK2・4～6には前後関係がある。工事掘削深度まで達していたため、SK2・3・4のみ掘削を行った。埋土はいずれも2～3層に分かれ、遺物は磁器・陶器・ガラス・貝などが出土した。いずれの土坑もゴミ捨て穴と考えられる。特にSK4からの出土遺物には、底部に「十六年 五匁」「公園 六匁」と判読できる墨書がされていた (第22図 80～82図版8)。

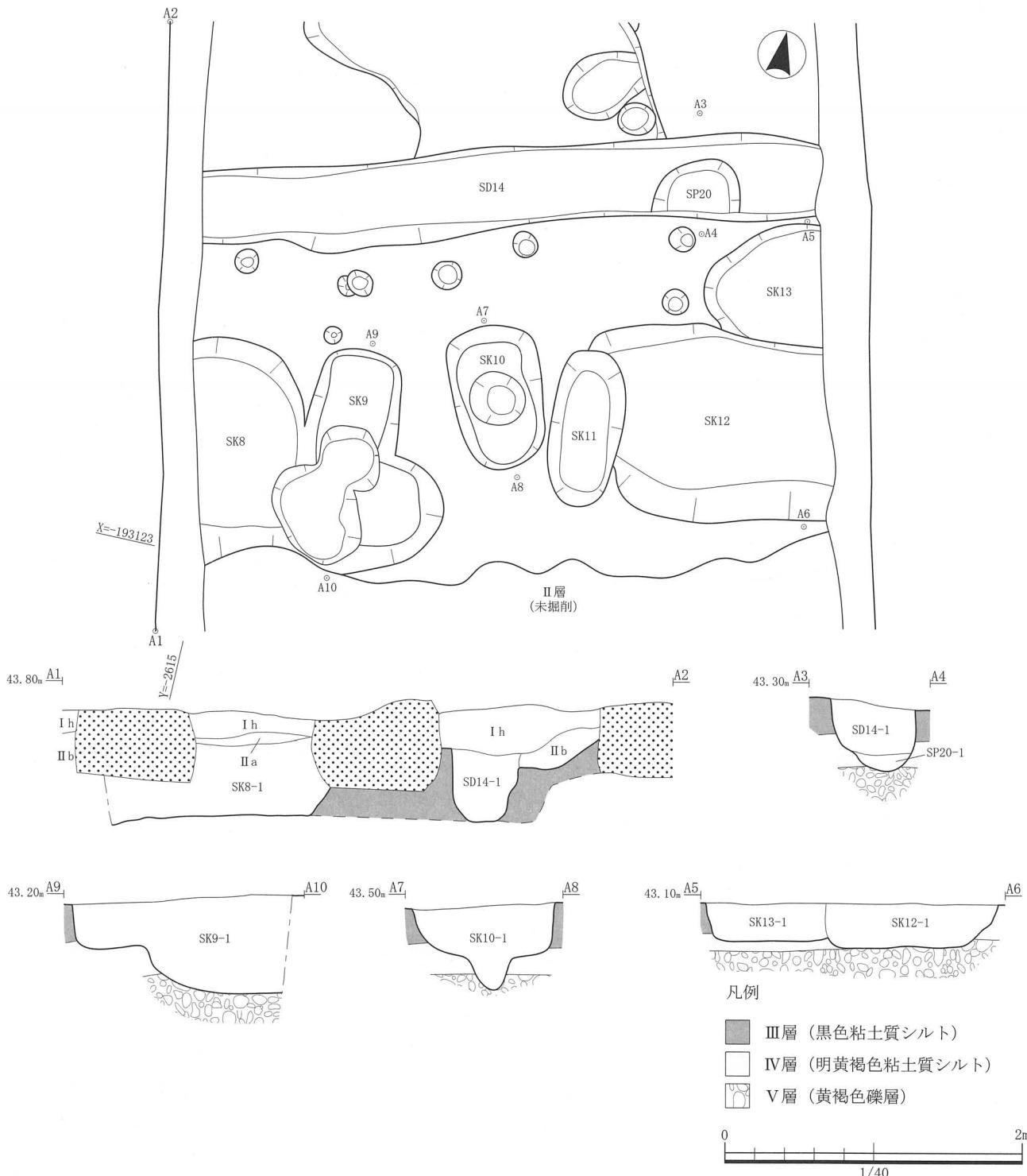
SK8～13 (第12図 図版3-3) はK34グリッド、SD14と未掘削のⅡ層整地土との間で検出した土坑群である。SK10・11のように1.0m×0.5～0.6mの長円形の土坑や、SK8・9・12・13のように遺構全体を確認したものはないが、一辺が1.0mを超えるような規模の大きな土坑がある。深さは0.3～0.6mで幅があるが、いずれもV層に達する。埋土は黒褐色～黄灰色粘質土と近似しており、明確な切り合いの差異を見出すことは難しい。未掘削のⅡb層整地土とも近似する。SK8はⅡ層整地土に切られる。性格は不明であるが、土坑の埋土がいずれも近似することから、同時期或いは短期間に営まれたと考えられる。遺物は磁器や陶器・土製品などが出土した (第22図 92・第23図 95)。

SD14 (第12図 図版3-3・4) はJK33・34グリッドで検出した。平面規模は幅0.4～0.5m、深さ0.3～0.4mで、調査区外へと続く。Ⅱa層を切る。埋土は黒褐色粘質土の単一層である。断面は平坦な底面より丸みをもって立ち上がる。SD14とSK8～13の間には径0.1m前後、深さ0.1m～0.2mの小規模なピットを8基確認した。柵列などの可能性もあるが、ピットの間隔は不揃いである。遺物は出土しなかった。

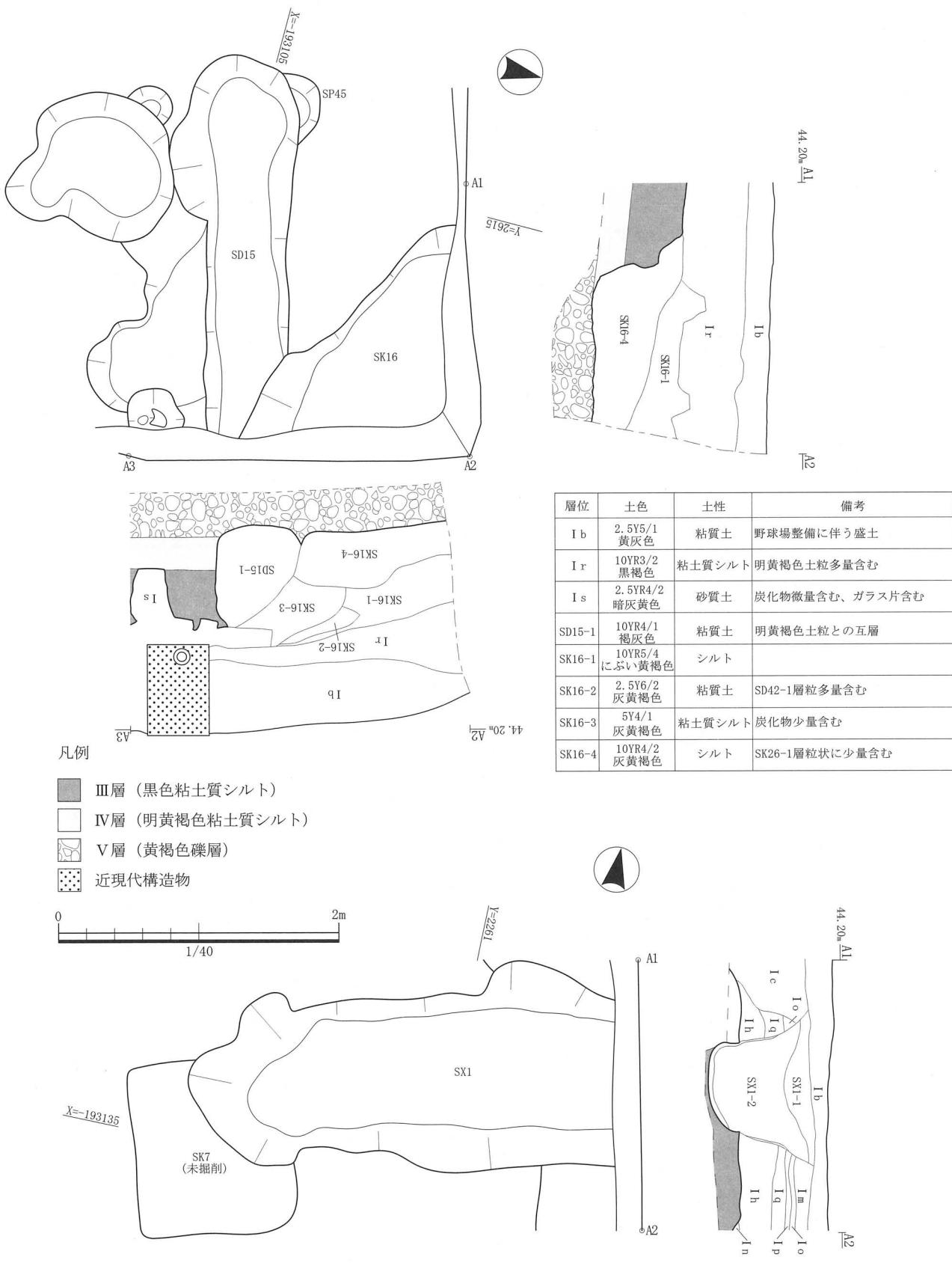
SD15 (第13図 図版3-5～7) はH33・34グリッドで検出した。平面規模は幅0.5m～0.7m、深さ0.7mで、調査区外へと続く。SK16に切られる。断面は垂直に立ち上がり、埋土は褐灰色粘質土の単一層である。遺物は出土しなかった。

SK16 (第13図 図版3-5～7) はG・H34グリッドで検出した。平面規模は南北1.5m以上、東西1.5m以上、深さ0.8mで調査区外へと続く。底面は平坦でV層に達し、断面は緩やかに立ち上がる。埋土は4層に分かれる。遺物は4層を中心として、瓦質土器・瓦・土師質土器などが出土した (第23図 94)。

遺物は上記遺構より出土した他はⅠ層より近世～近代の磁器・陶器・土製品・鉄製品などが出土した (第23図 102)。



層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
I b	2.5Y5/1 黄灰色	粘質土	野球場整備に伴う盛土	SK10-1	2.5Y3/2 黒褐色	粘質土	
I h	10YR4/1 褐灰色	粘質土	調査区の全体に認められる立町小学校に伴う整地層か	SK12-1	2.5Y3/1 黒褐色	粘質土	
II a	2.5Y7/6 明黄褐色	粘質土	II b層粒状に混入、SK51以南で断続的に認められる	SK13-1	2.5Y3/2 黒褐色	粘質土	
II b	2.5Y3/1 黒褐色	粘質土	炭化物少量含む	SD14-1	2.5Y3/2 黒褐色	粘質土	径3~5cm大の礫少量、炭化物微量含む
SK8-1	2.5Y3/1 黒褐色	粘質土	II b層と共にする	SP20-1	2.5Y3/1 黒褐色	粘質土	
SK9-1	2.5Y4/1 黄灰色	粘質土					



第13図 調査区C SX1・SD15・SK16平面図・断面図

調査区No. 1

街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。調査区内に公園の案内板が設置されていたことから、案内板及びその基礎を撤去した上で調査を行った。バックホウにより表土下1.2mまで掘削を行ったがⅡ層は確認できず、調査区の南側には歩道に伴うアスファルト基礎、東側には西公園の旧歩道に伴うコンクリート製の排水溝が埋設されていた。埋土は全て近代以降の堆積である。遺物は出土しなかった。

調査区No. 2

ハンドホール設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。バックホウにより表土下1.5mまで掘削を行ったがⅡ層は確認できず、調査区No. 1と同様に西公園の旧歩道に伴うコンクリート製の排水溝が埋設されていた。埋土は全て近代以降の堆積である。遺物は出土しなかった。

調査区No. 3

街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。表土下1.5mまでバックホウにより掘削を行ったがⅡ層は確認できず、埋土は全て近代以降の堆積である。調査区の東側には、弱電用ケーブルが埋設されていた。遺物は出土しなかった。

調査区No. 4

街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。バックホウにより表土下0.9mまで掘削を行ったがⅡ層は確認できなかった。調査区のほぼ全面にコンクリート基礎や瓦礫が残され、また、壁面崩落の危険性があったため、それ以上の掘削は行わなかった。埋土は全て近代以降の堆積である。遺物は近世～近代の磁器が少量出土した。

調査区No. 6

街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。表土下1.5mまでバックホウにより掘削を行ったがⅡ層は確認できなかった。埋土は全て近代以降の堆積である。調査区の東側には、弱電用ケーブルが埋設されていた。遺物は近代の「□陽飲料株式会社」銘のガラス瓶や瓦が出土した。

調査区No. 9 (図版4-1)

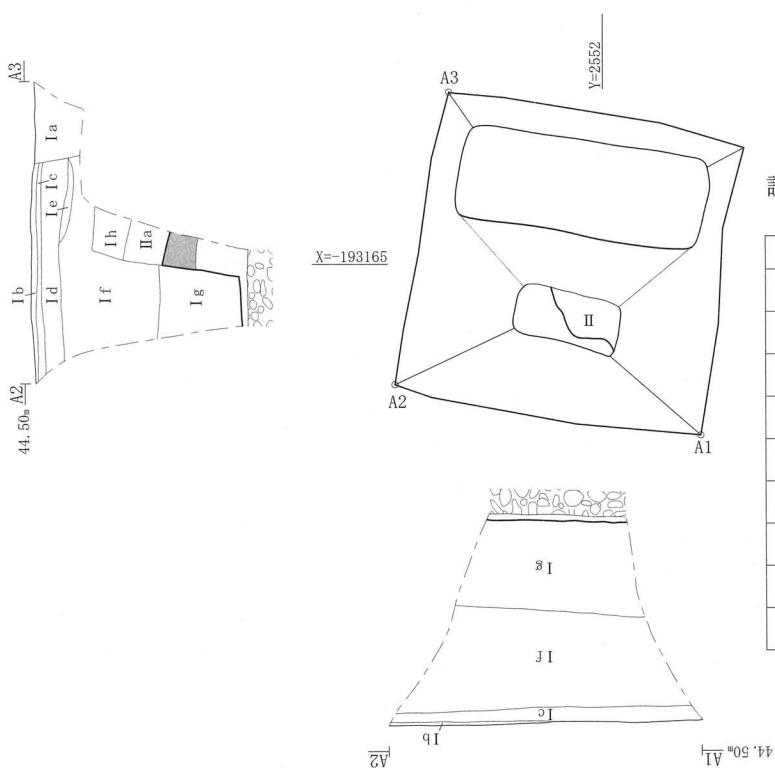
街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0×2.0m (4.0m²) である。バックホウにより表土下1.5mまで掘削を行ったがⅡ層は確認できなかった。埋土は全て近代以降の堆積で、ビニールやプラスチック片を含む。遺物は近世～近代の磁器・陶器が少量出土した。

調査区No. 12・13 (第10図)

街灯及びハンドホール設置計画に伴う調査で、調査面積は5.0m×2.0m (10.0m²) である。調査区Bとは一部調査区が重複する。バックホウにより表土下0.5mまで掘削を行い、西端でⅢ層を確認した。埋土は全て近代以降の堆積であり、Ⅱ層は確認できなかった。Ⅲ層上面で6基のピットを確認したが、埋土は全てⅠ層と共通することから近代以降のものと考えられる。また、調査区北西では風倒木跡と考えられる不整形な落ち込みSX 4を確認した。遺物はNo.12より近代の磁器が出土した。

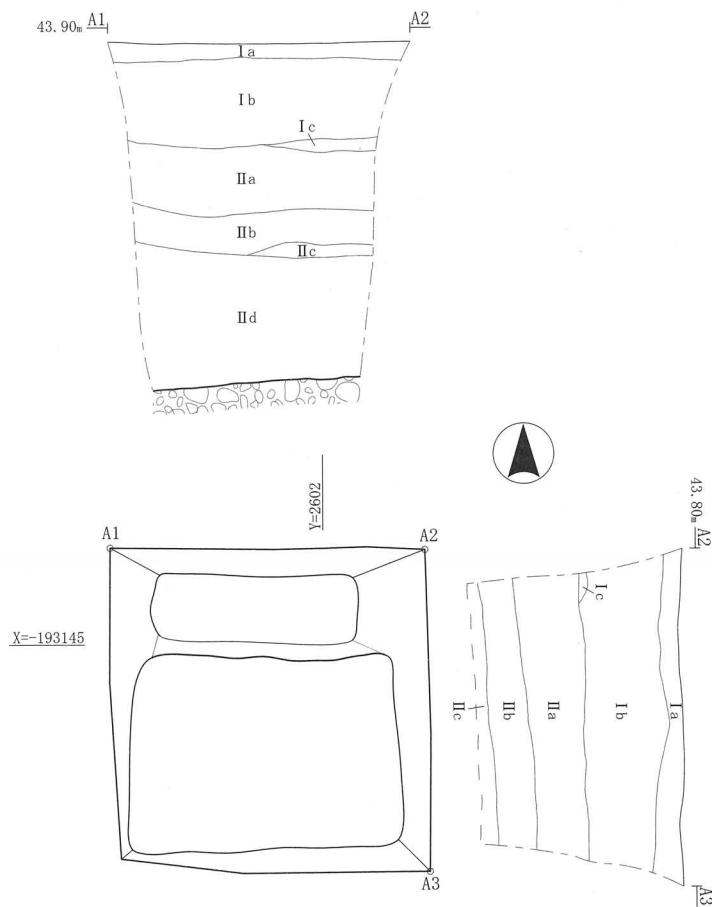
調査区No. 14 (第14図 図版4-2)

ハンドホール設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。人力により表土下0.4mまで掘削をしたところ、北側で弱電用セフティライン埋設テープを確認したので、この部分を避けて調査区の南側のみを表土下1.5mまで掘削し、Ⅳ層を確認した。Ⅳ層上面東側でⅡ層の落ち込みが見られた他、調査区西壁ではⅠ層の掘形とⅢ・Ⅳ層を確認した。Ⅰg層中にはプラスチックやガラス片を含むことから、現代の掘り込みと考えられる。また、西壁では埋土の特徴より判断してⅡ層の可能性のある堆積Ⅱa層を確認した。遺物は出土しなかった。



調査区No. 14

層位	土色	土性	備考
I a	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	電気管掘り込み覆土
I b	5Y7/3 浅黄色	砂	公園整備に伴う整地層
I c	7.5Y8/3 淡黄色	砂	整地層
I d	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	整地層
I e	10YR2/1 黑色	粘土質シルト	
I f	10YR4/2 灰黄色	シルト質砂	径2~10cm大の礫少量含む、攪乱層
I g	10YR4/1 黄灰色	シルト質砂	径2~10cm大の礫少量含む、攪乱層
I h	2.5Y7/4 浅黄色	砂質土	攪乱層
II a	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	

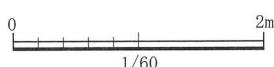


調査区No. 21

層位	土色	土性	備考
I a	5Y7/2 灰色	砂	公園整備に伴う整地層
I b	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	整地層
I c	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	I bよりも粘性強い、整地層
II a	10YR3/2 黒褐色	粘質土	整地層
II b	10YR3/1 黒褐色	粘質土	炭化物・焼土少量含む、整地層
II c	10YR3/3 暗褐色	粘質土	炭化物・焼土少量含む、整地層
II d	10YR3/2 黒褐色	粘質土	II cよりも粘性強い、径5~10cm大の礫多量含む、整地層

凡例

- III層（黒色粘土質シルト）
- IV層（明黄褐色粘土質シルト）
- ▨ V層（黄褐色礫層）



第14図 調査区No.14・21平面図・断面図

調査区No. 18 (図版4-3)

分電盤設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。計画位置が桜岡大神宮の参道上となることから南側へと変更した。人力により表土下1.2mまで掘削を行ったところ、調査区北側で弱電用セフティライン埋設テープを確認したので、この部分を避けて調査区の南側のみを表土下1.6mまで掘削し、V層を確認した。埋土はすべて近代以降の堆積であり、II層は確認できなかった。遺物は近世～近代の磁器・陶器・瓦などが出土した。

調査区No. 19

街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。計画位置が桜岡大神宮の参道上となることから南側へと変更した。人力により表土下1.2mまで掘削を行ったところ、調査区北側で弱電用セフティライン埋設テープを確認したので、この部分を避けて調査区の南側のみを表土下1.5mまで掘削したが、II層には達しなかった。埋土は全て近代以降の堆積である。遺物は近世～近代の磁器・陶器・瓦質土器などが出土した。

調査区No. 20

街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は1.8m×1.8m (3.24m²) である。計画位置が桜岡大神宮の参道上となることから南側へと位置を変更し、また調査地に隣接して電柱や樹木・ハンドホールなどがあるため、他の調査区よりも調査面積を縮小した。人力により表土下0.8mまで掘削を行ったところ、調査区内の全体で弱電用セフティライン埋設テープを確認したため、それ以上の掘削を行わなかった。埋土はすべて近代以降の堆積であり、II層は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

調査区No. 21 (第14図 図版4-4)

街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。バックホウにより表土下0.8まで掘削を行い、II層を確認した。II層上面で遺構は確認できなかった。バックホウにより表土下1.5mまでII層を掘削したが地山には達せず、確認のため調査区北側の一部を更に掘削した結果、表土下2.7mでV層を確認した。II層の堆積は1.9mに及び、埋土はIIa～IId層に分かれ。遺物はI層から近世～近代の磁器・陶器、II層からは近世の磁器・陶器・土師質土器・瓦質土器・銅製品・べっ甲製品など多種・多量の遺物が出土した(第18図 1～第21図 68)。

調査区No. 22 (図版4-5)

街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.5m×2.5m (6.25m²) である。バックホウにより表土下0.5mまで掘削を行い、III層を確認した。III層までの堆積はすべて近代以降のものであり、II層は確認できなかった。III層上面ではピット1基と不明遺構1基を確認した。SP1は時期不明、SX1は近代以降と考えられる。

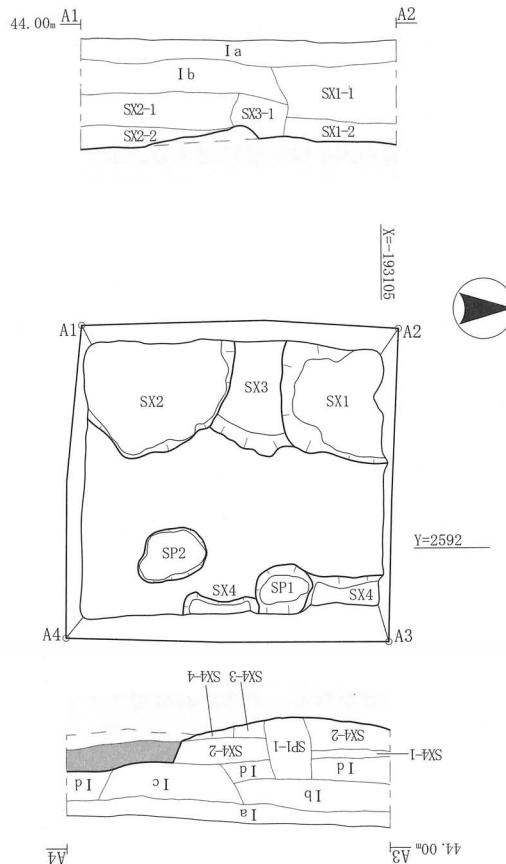
SP1は径0.5mのやや不整形な円錐で深さ0.3mである埋土は黒褐色粘土質シルトの単一層である。

SX1は南北1.1m以上、東西0.3m以上で調査区外へと続き、深さ0.5mである。埋土はI層と同質で壁面は垂直に立ち上がることから調査区AのSX3～7や調査区CのSX1・20と共に通する遺構の可能性があるが、壁面の被熱による赤橙色化や底面の炭化物の堆積は認められない。

遺物はSX1より土師質土器と鉄製品の細片が出土した。

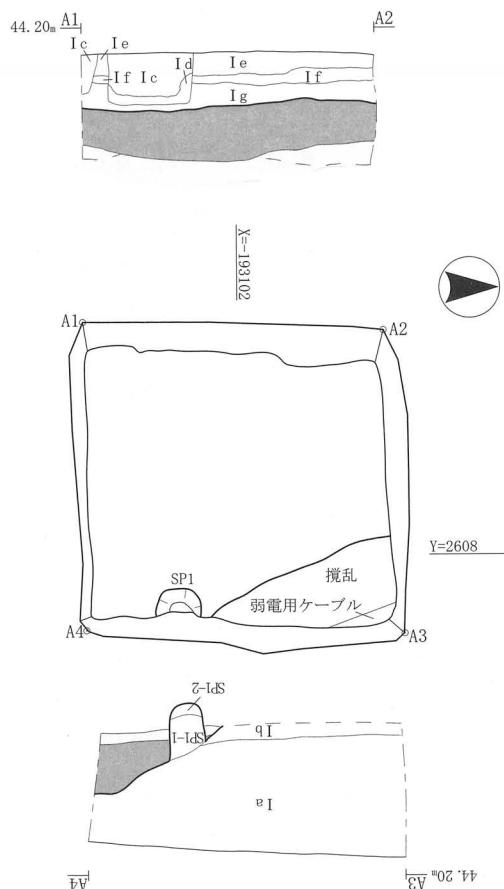
調査区No. 24 (図版4-6)

ハンドホール設置計画に伴う調査で、調査面積は2.6m×2.5m (6.5m²) である。バックホウにより表土下1.2mまで掘削を行い、北側でV層を確認した。北から南に向けて傾斜し、南側では表土下1.6mまで掘削を行った。V層までの堆積はコンクリート基礎や鉄筋が埋設されているなど全て近代以降の堆積であり、II層は確認できなかった。遺物は出土しなかった。



調査区No. 25

層位	土色	土性	備考
I a	10YR3/4 暗褐色	シルト	現代整地層
I b	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物・焼土微量含む
I c	10YR3/1 黒褐色	シルト	径1~10cm大の礫少量含む
I d	10YR3/2 黒褐色	シルト	
SP1-1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	VII層粒状に少量含む
SX1-1	10YR3/4 暗褐色	シルト	径1~3cm大の礫少量含む
SX1-2	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	径1~3cm大の礫少量含む
SX2-1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物・焼土微量含む
SX2-2	10YR2/1 黒色	シルト	IV層ブロック少量含む
SX3-1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	IV層ブロック少量含む
SX3-2	10YR3/1 黒褐色	シルト	
SX4-1	10YR3/2 黒褐色	シルト	
SX4-2	10YR2/2 黒褐色	シルト	
SX4-3	10YR2/1 黒褐色	シルト	
SX4-4	10YR3/4 暗褐色	シルト	黒褐色土ブロック微量含む



調査区No. 26

層位	土色	土性	備考
I a	10YR2/1 黒褐色	粘土質シルト	電気管掘り込み覆土
I b	10YR7/1 灰白色	砂	電気管掘り込み覆土
I c	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	建物基礎
I d	2.5Y5/1 黄灰色	砂礫	径1~3cm大の礫多量含む
I e	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	整地層
I f	10YR7/4 にぶい黄橙色	砂礫	径1~3cm大の礫多量含む、非常に硬く締まる、整地層
I g	10YR3/2 黒褐色	シルト	整地層
SP1-1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	
SP1-2	10YR4/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	IV層ブロック少量含む

凡例

- III層（黒色粘土質シルト）
- IV層（明黄褐色粘土質シルト）
- V層（黄褐色礫層）

0 2m
1/60

第15図 調査区No.25・26平面図・断面図

調査区No. 25 (第15図 図版 4 - 7)

街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。バックホウにより表土下0.3mまで掘削を行い、Ⅲ・Ⅳ層を確認した。Ⅲ層は調査区南東側に一部残るのみで、検出面の大半はⅣ層に達する。Ⅲ・Ⅳ層上面までの堆積はすべて近代以降のもので、Ⅱ層は確認できなかった。Ⅲ・Ⅳ層上面ではピット2基及び浅い落ち込み4基を確認した。すべて近代以降の遺構と考えられる。

SP 1・2は径約0.5mのやや不整形な円形で、深さ約0.5mである。埋土は単一層である。SP 1はSX 4より新しい。

SX 1～4は調査区の東西両端で検出した浅い落ち込みである。埋土はいずれもⅠ層と共通する。

遺物は出土しなかった。

調査区No. 26 (第15図)

街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。バックホウにより表土下0.4mまで掘削を行い、Ⅲ層を確認した。Ⅲ層上面までの堆積はすべて近代以降のもので、Ⅱ層は確認できなかった。調査区北西隅は、弱電用ケーブル埋設に伴う掘り込みにより搅乱を受ける。Ⅲ層上面ではピット1基を確認した。SP 1の帰属時期は不明である。

SP 1は径約0.3mの円形で調査区外へと続き、深さ0.5mである。埋土は2層に分かれ。上部が弱電用ケーブル埋設に伴う掘り込みによって削平されることから、本来の検出面は更に上部と考えられる。

遺物は出土しなかった。

調査区No. 27 (第16図 図版 4 - 8)

街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。バックホウにより表土下1.4mまで掘削を行い、Ⅱ層を確認した。Ⅱ層上面で遺構検出を行ったが顕著な遺構は確認できず、調査区東側で一部Ⅱa層の断割りを行い、北東側への落ち込みを確認した。遺物はⅠ層より近世～近代の磁器・陶器、Ⅱa層より近世の磁器・陶器・瓦質土器が出土した(第21図 71)。

調査区No. 28 (図版 5 - 1)

街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。バックホウにより表土下1.5mまで掘削を行ったが、Ⅱ層は確認できなかった。埋土は全て近代以降の堆積である。遺物は近世～近代の磁器・陶器・鉄製品などが出土した。

調査区No. 29 (第16図 図版 5 - 2)

ハンドホール設置計画に伴う調査で調査面積2.0m×2.0m (4.0m²) である。バックホウにより表土下1.5mまで掘削を行い、V層を確認した。V層までの堆積はすべて近代以降のものである。V層上面では土坑2基を確認した。いずれも近代の土坑と考えられる。

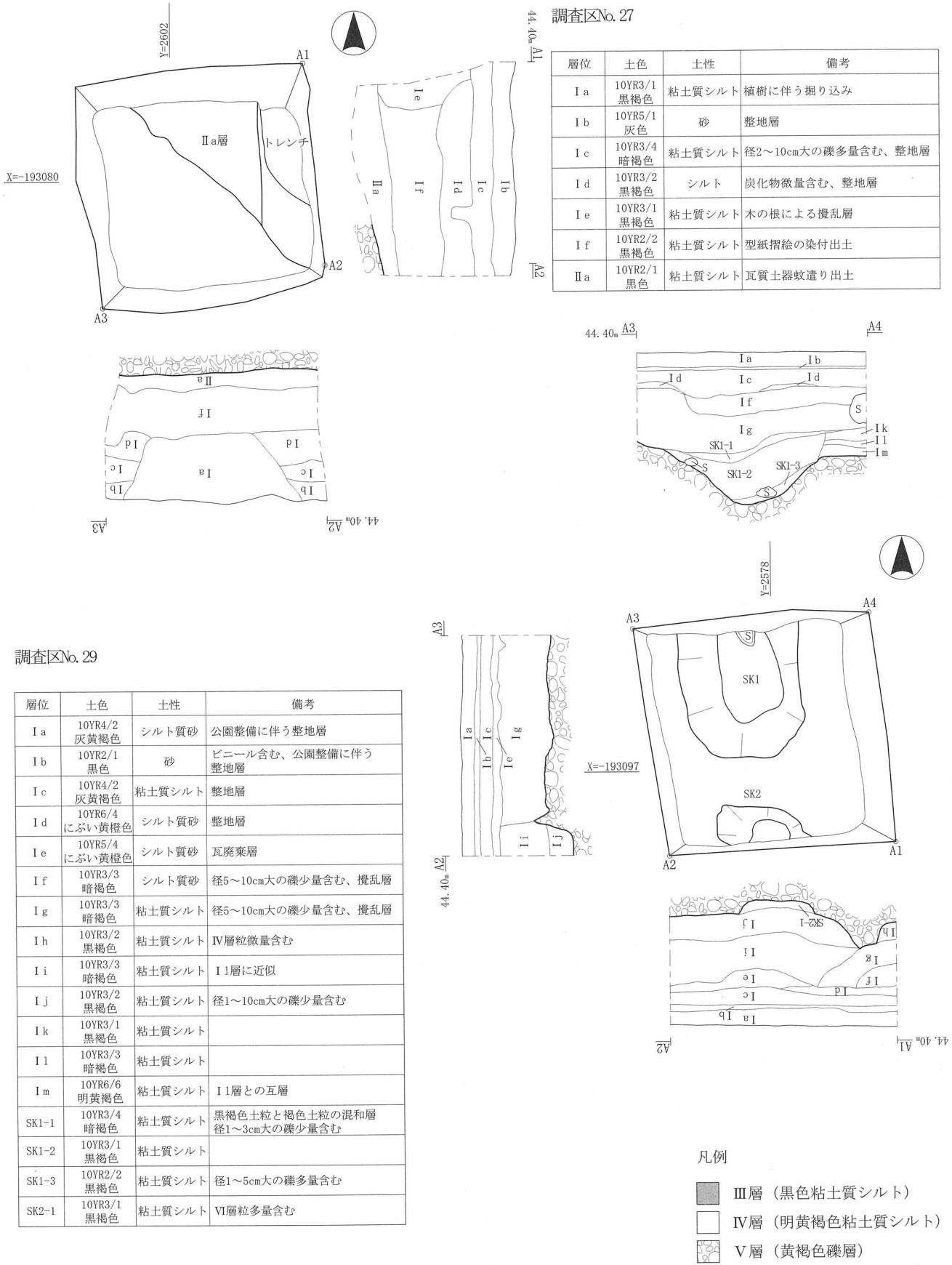
SK 1は1.2m以上×1.3mの不整形な土坑で調査区外へと続き、深さ1.0mである。埋土は3層に分かれ。

SK 2は0.8m×0.4m以上の不整形な土坑で調査区外へと続き、深さ0.1mである。埋土は単一層でSK 1～2層と共通する。

遺物はⅠ層より近世～近代の磁器・陶器・ガラス、SK 1より近世～近代の磁器・陶器、SK 2より近世～近代の陶器が出土した。

調査区No. 30・31 (第7図)

分電盤及びハンドホール設置計画に伴う調査で、調査面積は5.0m×2.0m (10.0m²) である。調査区Aとは一部調査区が重複する。調査区No.30では表土下0.7m、調査区No.31では表土下1.3mでⅣ層を確認した。Ⅳ層までの堆積はすべて近代以降のものである。調査区No.30ではコンクリート基礎及び旧立町小学校のものと考えられる基礎を確認した。遺物は出土しなかった。



第16図 調査区No27・29 平面図・断面図

調査区No.33（第7図 図版5-3）

ハンドホール設置計画に伴う調査で、調査面積は25m×1.5m (3.75m²) である。バックホウにより表土下0.8mまで掘削を行い、Ⅲ・Ⅳ層を確認した。Ⅲ層は部分的であり、調査区の大半はⅣ層となる。Ⅲ・Ⅳ層までの堆積は全て近代以降の堆積で、Ⅱ層は確認できなかった。Ⅲ・Ⅳ層上面では3基のピットを確認した。すべて近代以降と考えられる。

SP 1～SP 3 は径0.2～0.3mの円形で、深さ0.2～0.3mである。埋土は全て黒褐色粘質土の単一層で、調査区AのI b層と同質である。

遺物は出土しなかった。

調査区No.34・35（第17図 図版5-4）

ハンドホール・街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は4.0m×2.0m (8.0m²) である。バックホウにより表土下1.1mまで掘削を行い、Ⅳ層を確認した。Ⅳ層までの堆積は全て近代以降のもので、Ⅱ層は確認できなかった。Ⅳ層上面では集石遺構2基、ピット4基、不整形な落ち込み2基を確認した。いずれも近代の遺構と考えられる。

SK 1 は1.1m以上×0.7mの不整形な土坑で調査区外へと続き、深さ0.5mである。径20～40cm大の粗割りした礫の集積が認められるが、配置の規則性は認められない。埋土は単一層である。

SK 2 は1.4m×0.9m以上の不整形な土坑で調査区外へと続き、深さ0.4mである。土坑内に径50cmほどの礫が置かれる。礫は頂部が比較的平坦なため、建物の基礎の可能性がある。埋土は3層に分かれ、小礫を多く含む。

SP 3～6 は径約0.3～0.5mのやや不整形な円形で深さ0.3～0.5mである。埋土は褐灰色粘質土の単一層である。

SX 7～8 は調査区外へと続く不正形な落ち込みである。深さ0.1～0.3mでSX 7はSP 6に切られる。埋土はI層と共に通する。

遺物はI層より近世～近代の磁器・陶器が出土した。

調査区No.37（第17図 図版5-5～7）

ハンドホール設置計画に伴う調査で、調査面積は2.0m×2.0m (4.0m²) である。バックホウにより表土下0.7mまで掘削を行い、Ⅲ層を確認した。Ⅲ層までの堆積は全て近代以降のもので、Ⅱ層は確認できなかった。Ⅲ層上面では土坑3基を確認した。全て近代以降の土坑である。

SK 1 は1.0m×0.9mの方形土坑で、深さ0.3mである。土坑の輪郭に沿って厚さ3～5mmの長方形板材を釘留めにより組み合わせる。

SK 2 は0.5m以上×0.5m以上の土坑でSK 1に切られ、深さ0.7mである。埋土は2層に分かれれる。

SK 3 は1.5m以上×1.0m以上の不整形な土坑で、深さ1.0mである。埋土は5層に分かれれる。

遺物はI層より近世～近代の磁器・陶器・ガラスなどが出土した他、SK 1木枠内より鉄製品、おはじきや瓶などのガラス製品、猪と考えられる獸の顎骨が出土した。

調査区No.38（図版5-8）

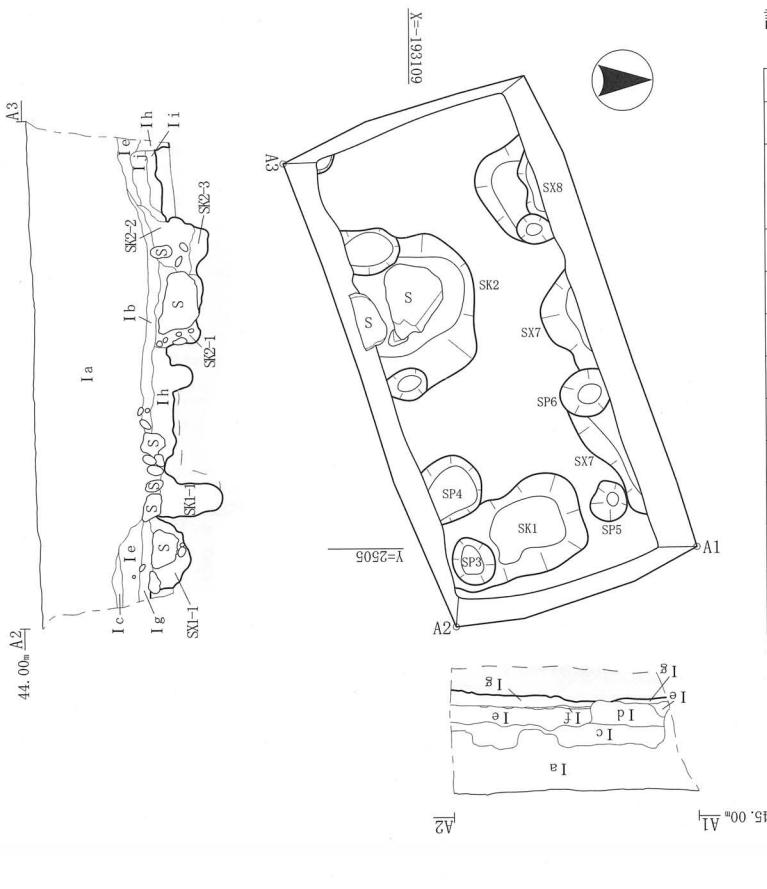
街灯設置計画に伴う調査で、調査面積は20m×2.0m (4.0m²) である。調査区No.37の西側に隣接する。バックホウにより表土下0.7mまで掘削を行い、Ⅲ層を確認した。Ⅲ層までの堆積は全て近代以降のもので、Ⅱ層は確認できなかった。Ⅲ層上面では、ピット3基と不整形な土坑1基を検出した。遺構内から遺物は出土しなかつたが、調査区No.37と遺構検出面の標高は同一であり、また埋土も近似することから、いずれも近代の遺構と考えられる。

SK 1 は0.8m×0.5mのやや不整形な長方形の土坑で、深さ0.3mである。埋土は暗褐色粘質土の単一層である。

SP 2～4 は径0.2～0.3mの円形のピットで、深さ0.4～0.8mである。埋土は暗褐色～黒褐色粘質土である。

遺物は近世～近代の磁器・陶器などが出土した。

調査区No. 34・35



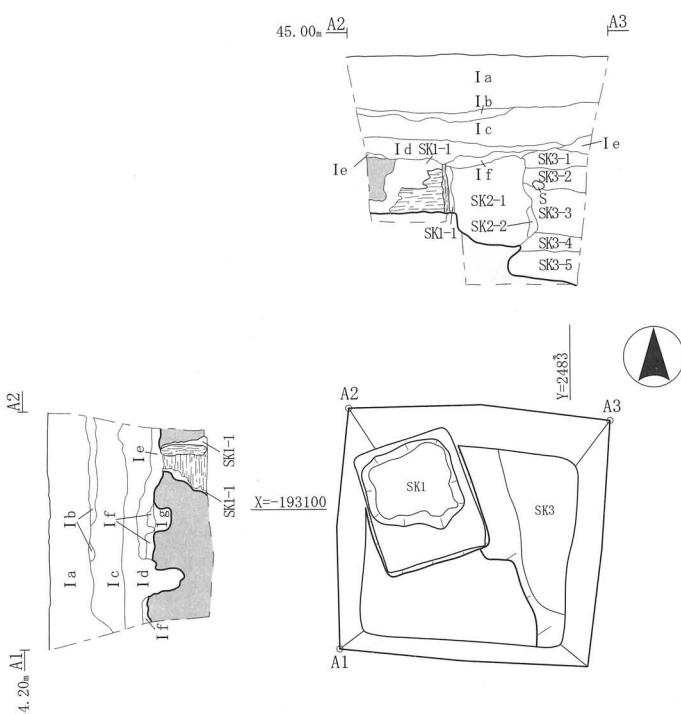
層位	土色	土性	備考
I a	10YR6/1 褐色	粘土質シルト	径5~15cm大の礫多量含む
I b	10YR5/1 褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む
I c	10YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	径5~8cm大の礫多量含む
I d	7.5Y4/3 褐色	粘土質シルト	炭化物・赤褐色土粒多量含む
I e	7.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物少量含む
I f	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物少量含む
I g	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	暗褐色土と明黄褐色土との互層
I h	2.5Y8/2 灰白色	砂	
I i	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	径1~2cm大の礫少量含む
SK1-1	2.5Y8/2 灰白色	砂	
SK2-1	2.5Y8/2 灰白色	砂	SX1-1と同質
SK2-2	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	径5~8cm大の礫多量含む
SK2-3	2.5Y8/6 黄色	粘土質シルト	赤褐色土粒と黒褐色土粒の混和層

凡例

- III層（黒色粘土質シルト）
- IV層（明黄褐色粘土質シルト）
- V層（黄褐色礫層）

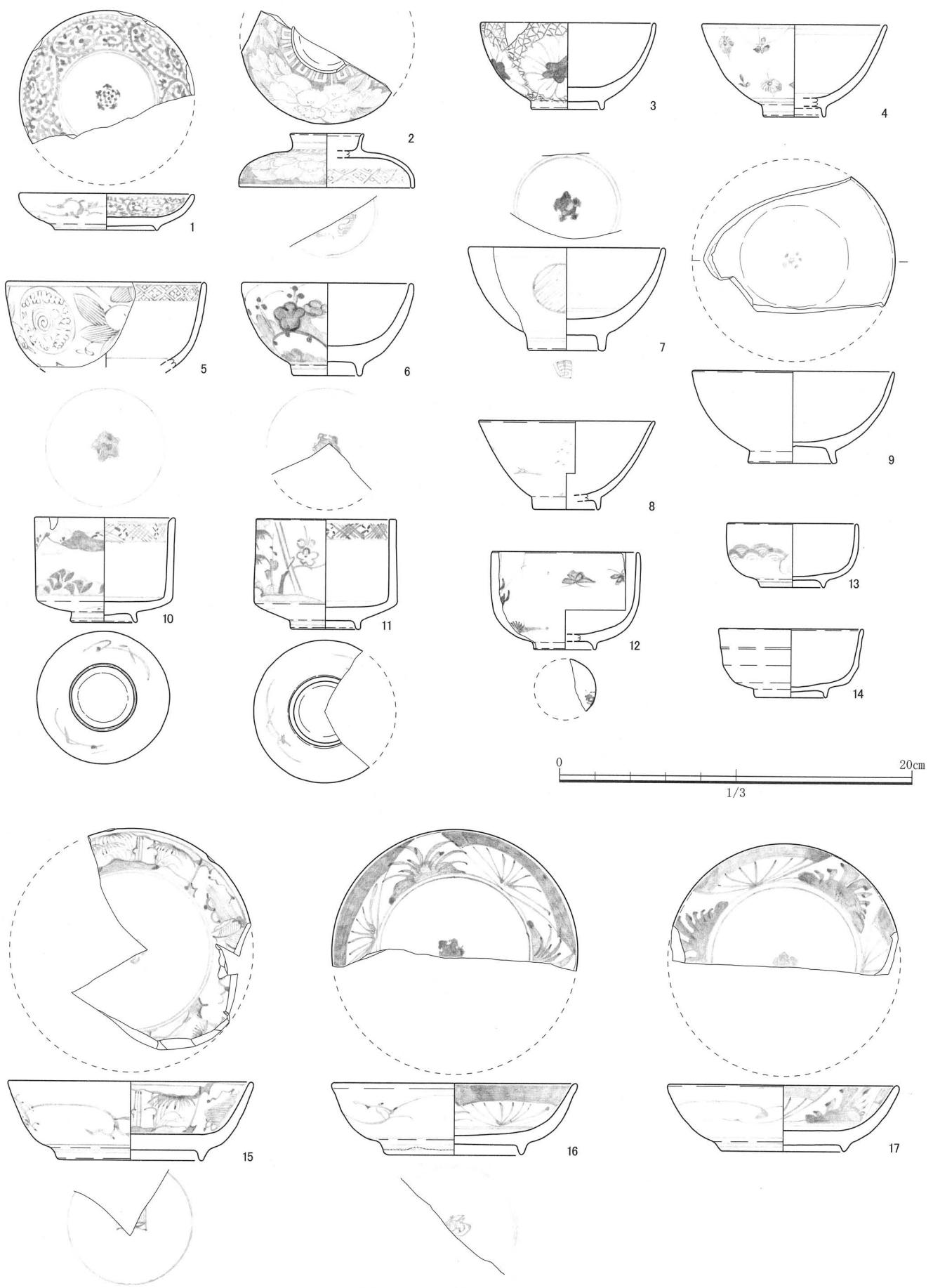
0 2m
1/60

調査区No. 37

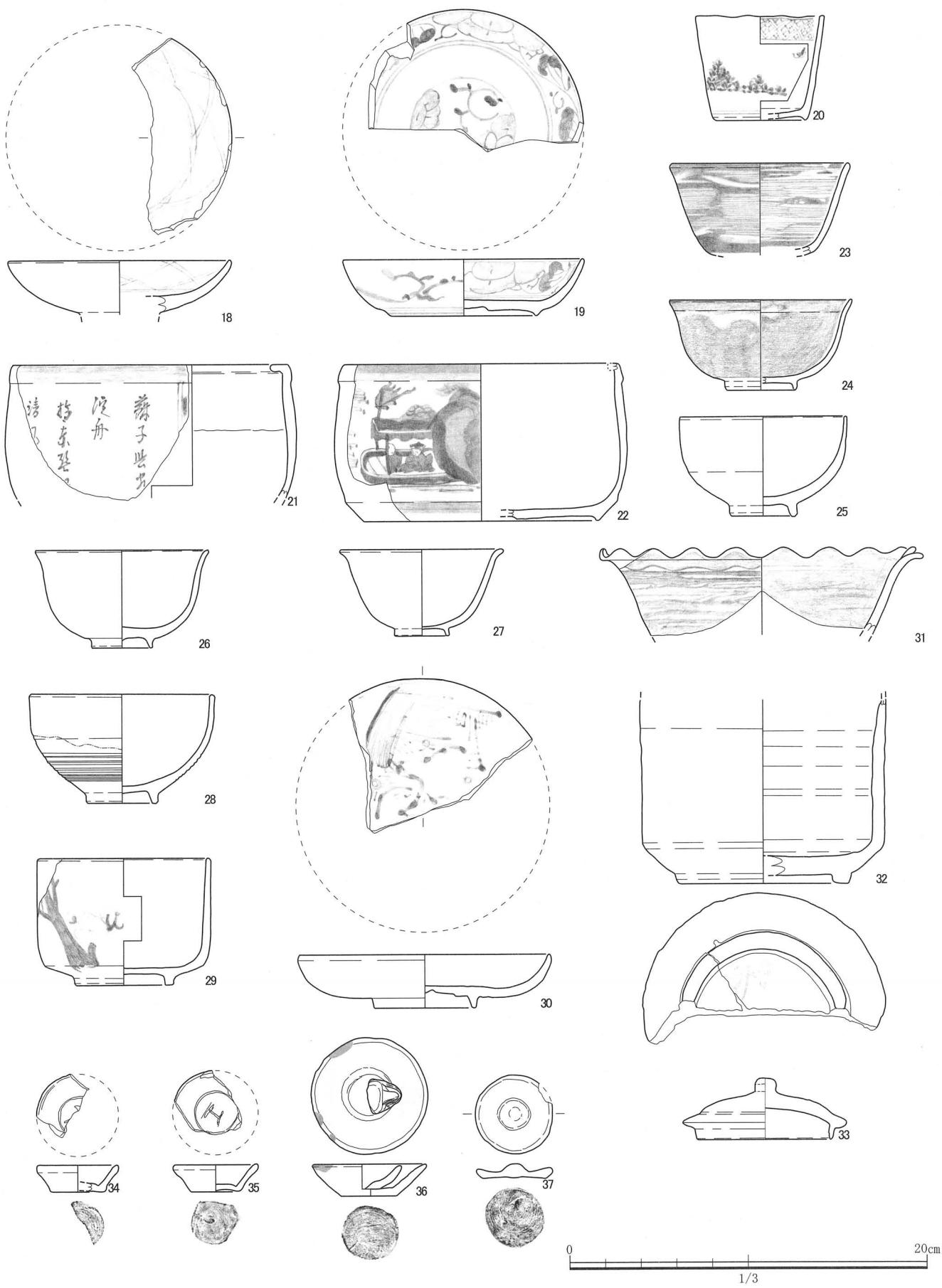


層位	土色	土性	備考
I a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	現表土
I b	10YR8/2 灰白色	砂	公園整備に伴う整地層
I c	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	
I d	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	ガラス片含む
I e	10YR4/2 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む
I f	10YR8/2 灰白色	シルト質砂	白色土粒少量含む
I g	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	
SK1-1	10YR5/2 灰黃褐色	粘土質シルト	SX1の堀方SX2を切る
SK2-1	10YR5/2 灰黃褐色	粘土質シルト	SX3を切る
SK2-2	10YR5/1 褐色	粘土	粘土ブロック
SK3-1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む
SK3-2	10YR4/2 灰黃褐色	粘土質シルト	SX3-1・SX3-3層ブロックの混和層
SK3-3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物微量含む
SK3-4	10YR5/2 黒色	粘土質シルト	褐灰色粘土ブロック多量含む
SK3-5	10YR4/1 灰褐色	粘土質シルト	径1~5cm大の礫少量含む

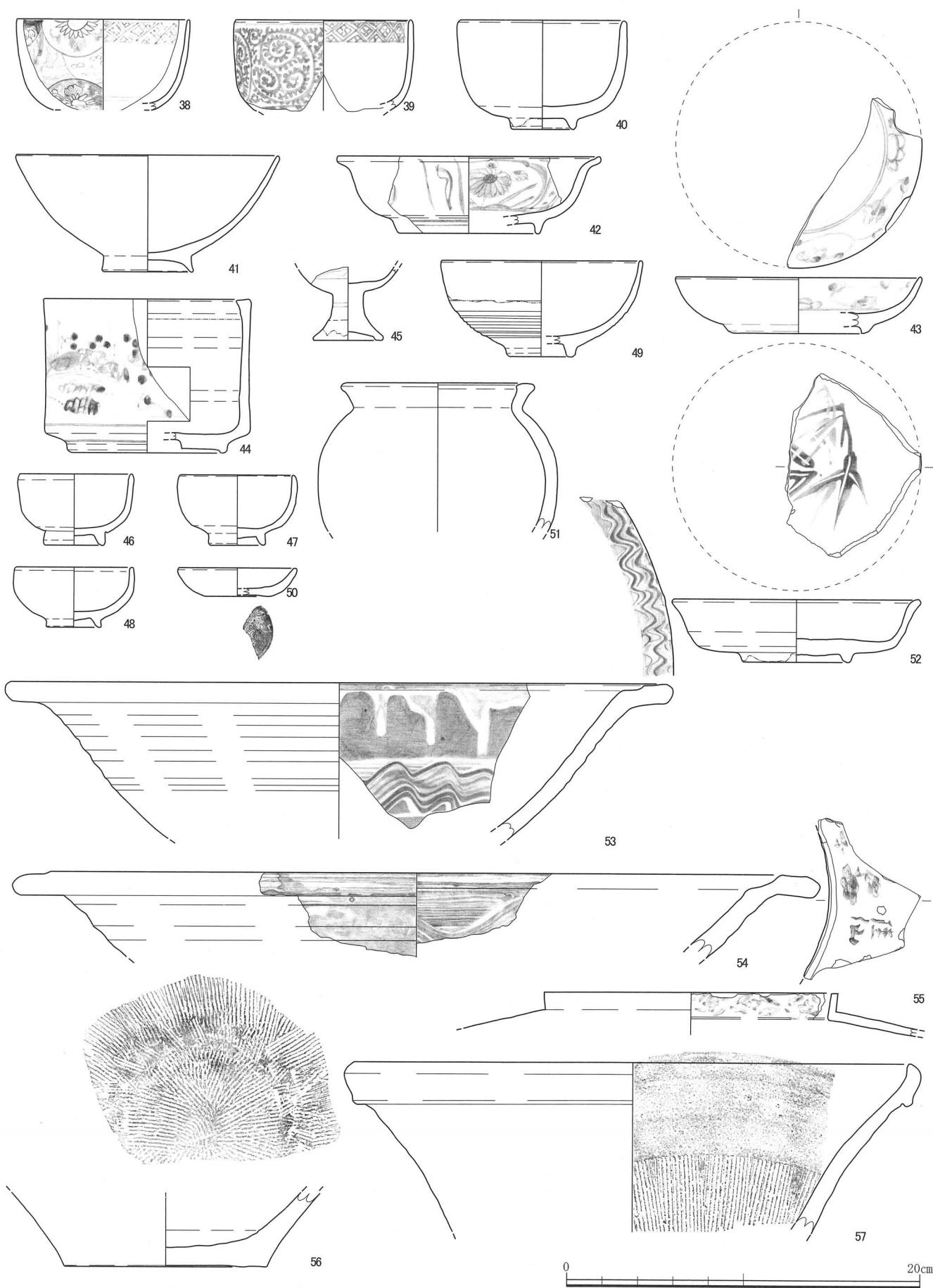
第17図 調査区No.34・35・37平面図・断面図



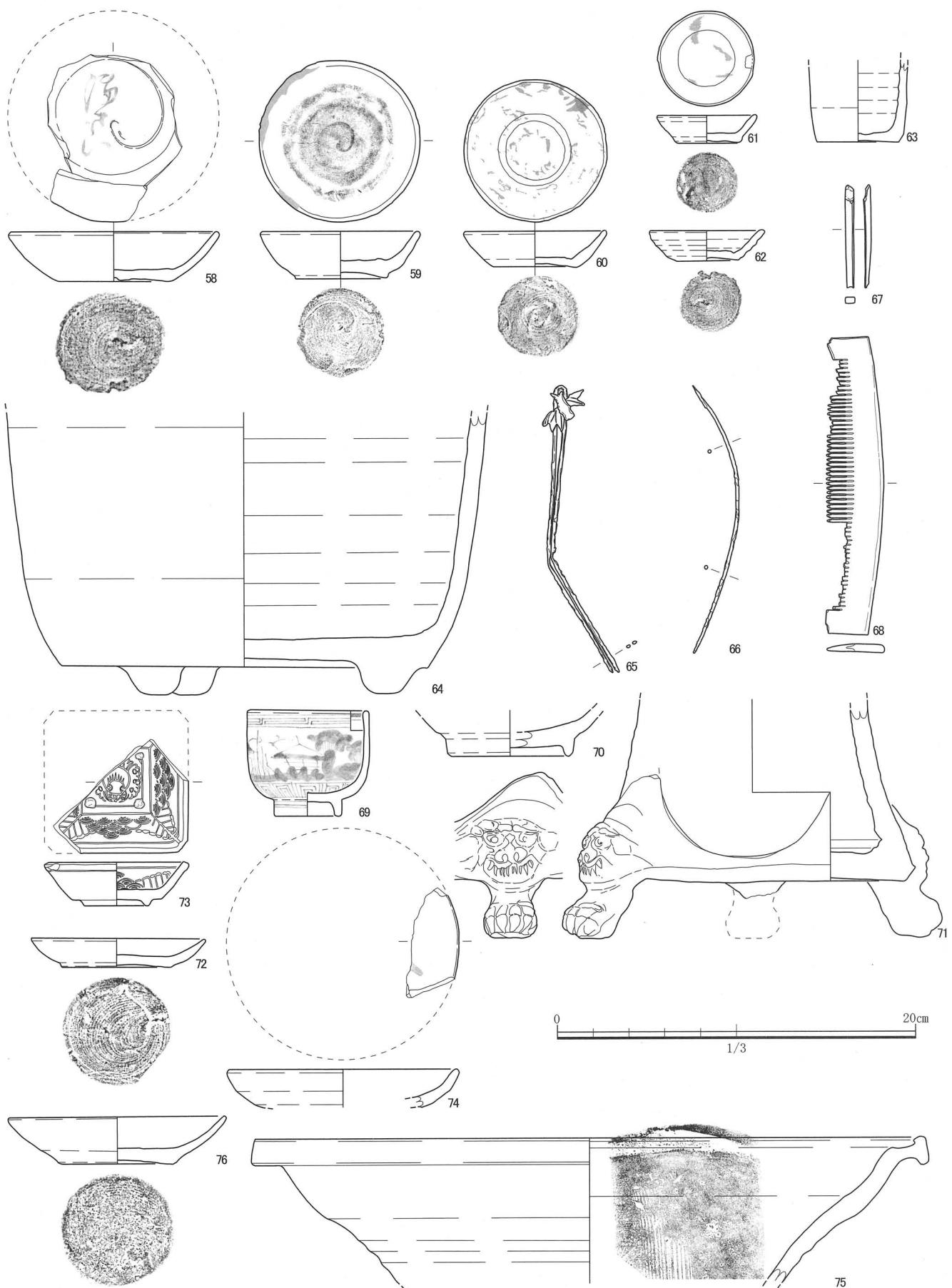
第18図 出土遺物実測図 (1)



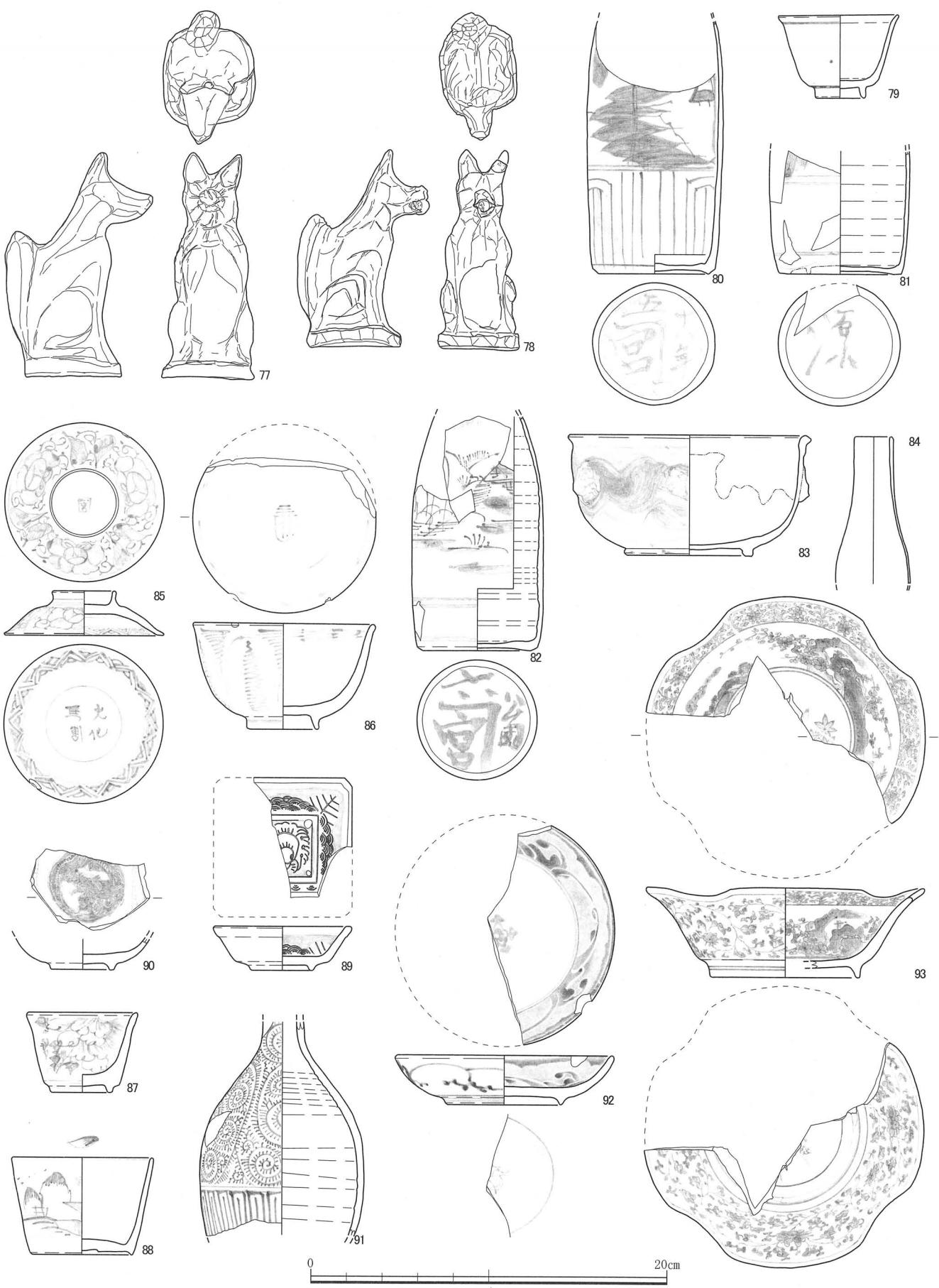
第19図 出土遺物実測図 (2)



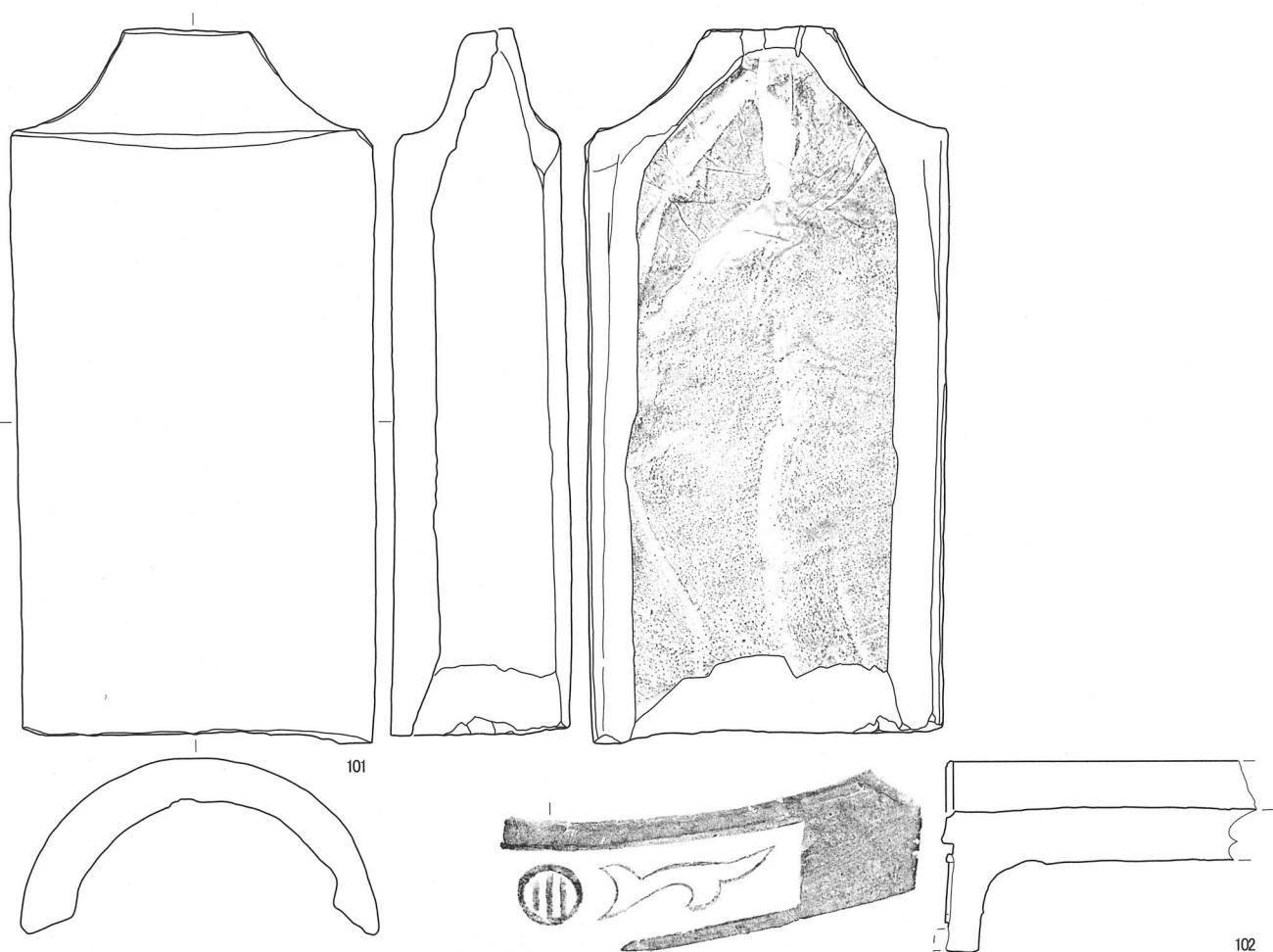
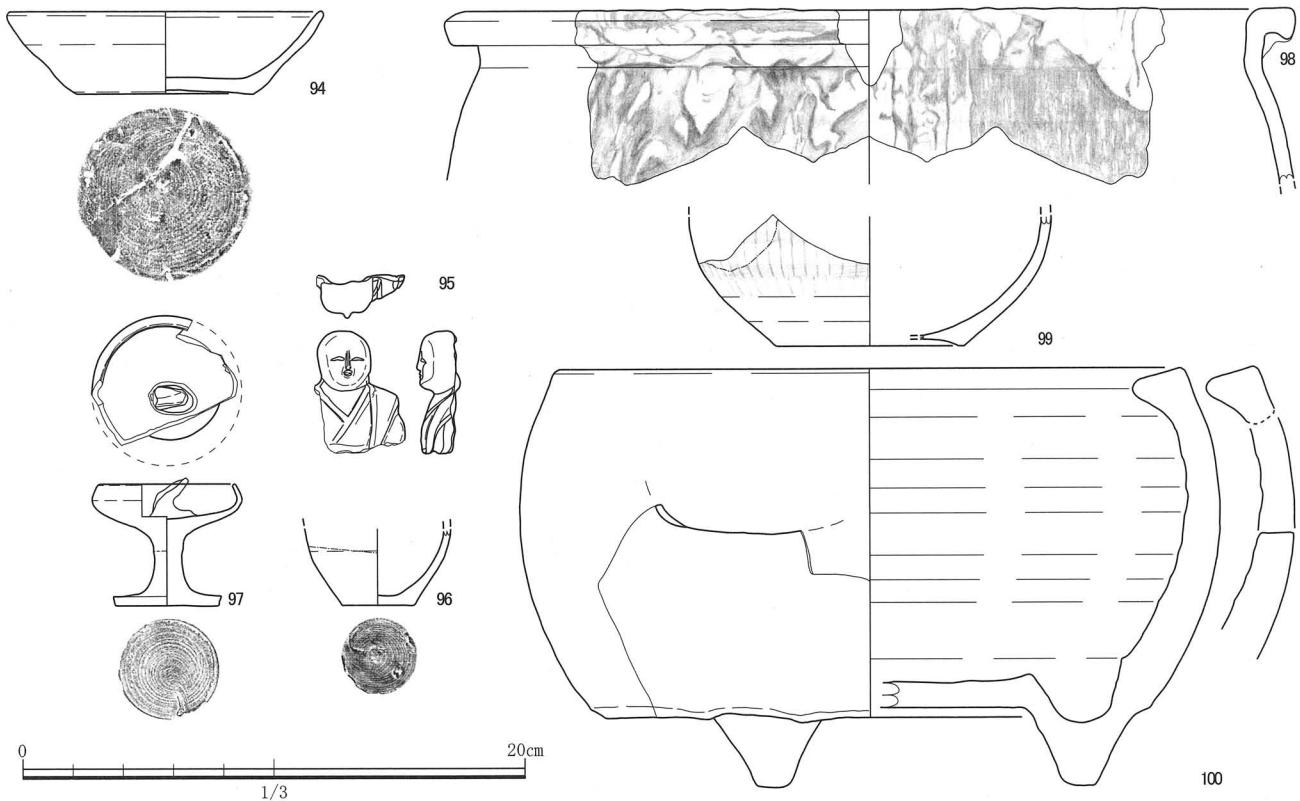
第20図 出土遺物実測図 (3)



第21図 出土遺物実測図 (4)



第22図 出土遺物実測図 (5)



第23図 出土遺物実測図 (6)

沖津四番号	反版番号	遺構・層位	調査区	種別	器種	法量	特徴	製作地	年代	登録番号
第20図53	反版7-53	II d層	No. 21	陶器	大鉢 鉢	口径 (38.0) (46.0)	底径 - (16.7)	器高 (6.9) (4.8)	刷毛目	唐津系 18世紀代
第20図54	反版7-54	II d層	No. 21	陶器	小鉢 蓋?	-	-	-	-	唐津系 1024
第20図55	反版7-55	II d層	No. 21	陶器	壺 壺?	-	11.6	4.25	内面：緑釉による菱 幾縁無袖、11本筋目	不明 18世紀代 在地か? 19世紀前葉?
第20図56	反版7-56	II d層	No. 21	陶器	壺 壺?	31.6	-	9.65	内面：ロクロナデ、外 面：ロクロナデ	在地 不明 1025
第20図57	反版7-57	II d層	No. 21	陶器	壺 壺?	(11.55)	6.2	2.8	内面：ロクロナデ、外 面：ロクロナデ	在地 不明 1026
第21図58	反版7-58	II d層	No. 21	土師質土器	灯明皿	8.7	5.0	2.6	内面：ロクロナデ、外 面：ロクロナデ	在地 不明 1027
第21図59	反版7-59	II d層	No. 21	土師質土器	灯明皿	7.8	4.6	2.5	内面：ロクロナデ、外 面：ロクロナデ	在地 不明 1028
第21図60	反版7-60	II d層	No. 21	土師質土器	灯明皿	5.4	3.4	1.6	内面：ロクロナデ、外 面：ロクロナデ	在地 不明 1029
第21図61	反版7-61	II d層	No. 21	土師質土器	灯明皿	6.4	3.5	1.8	内面：ロクロナデ、外 面：ロクロナデ	在地 不明 1030
第21図62	反版7-62	II d層	No. 21	土師質土器	燐	-	4.5	(4.6)	底面：回転糸切り	不明 不明 1031
第21図63	反版7-63	II d層	No. 21	土師質土器	燐	-	20.5	15.9	三脚	不明 不明 1032
第21図64	反版7-64	II d層	No. 21	瓦質土器	簪	長さ：11.1	-	-	頂部装飾：花葉か	不明 不明 N001
第21図65	反版7-65	II d層	No. 21	銅製品	簪?	長さ：15.0	-	-	-	不明 不明 N002
第21図66	反版7-66	II d層	No. 21	土師質土器	簪?	厚さ：0.2	-	-	-	不明 不明 0001
第21図67	反版7-67	II d層	No. 21	骨角器	簪?	厚さ：0.45	幅：0.45	厚さ：0.35	-	不明 不明 1033
第21図68	反版7-68	II d層	No. 21	骨角器	櫛	長さ：16.8	幅3.2	厚さ：0.45	櫛縫46本	不明 切込焼? 19世紀後葉
第21図69	反版7-69	I 層	No. 29	磁器	染付小型碗	6.8	3.6	6.0	外 面：山水文・童文	小黒相馬 18世紀代
第21図70	反版7-70	I 层	No. 38	陶器	鉢か?	-	(6.6)	(2.6)	-	在地? 不明 1034
第21図71	反版8-71	SX1	No. 27	瓦質土器	蚊取り	-	19.7	(13.4)	黙脚(3脚)	在地? 不明 1035
第21図72	反版7-72	I 层	No. 29	土師質土器	皿	9.8	6.1	1.7	内面：ろくら筆文	切込焼 19世紀前葉～中葉
第21図73	反版7-73	I 层	A	磁器	白磁小皿	(8.1)	(3.6)	2.45	内面：ろくら筆文	瀬戸美濃 17世紀前
第21図74	反版7-74	I 层	A	陶器	櫛	12.8	-	2.15	悪動織部、灰釉(小深井釉)に鍍金	瀬戸美濃 17世紀後葉
第21図75	反版8-75	SK1	A	土師質土器	壺	37.6	-	(8.2)	鉢袖	瀬戸美濃 17世紀後葉
第21図76	反版7-76	SK1	A	土製品	土人形	幅6.0	6.6	2.7	内面：ロクロナデ・系切底	不明 1036
第21図77	反版8-77	I 层	B	土製品	土人形	幅5.4	-	11.2	弧、堤人形、型作り・左右貼り合せ	燒 19世紀後葉～20世紀
第22図78	反版8-78	I 层	B	磁器	染付环	(6.65)	(2.85)	2.75	-	1037
第22図79	反版8-79	SK4	C	磁器	染付环	-	6.2	14.25	底面「十六年五宮」	瀬戸美濃 19世紀後葉～20世紀
第22図80	反版8-80	SK4	C	磁器	染付环	-	6.9	6.9	底面「源」	瀬戸美濃 19世紀後葉～20世紀
第22図81	反版8-81	SK4	C	磁器	染付环	-	6.8	(13.2)	色絵山水文、底面「公園六富」	大堀相馬 19世紀後葉～20世紀
第22図82	反版8-82	SK4	C	陶器	鉢	-	7.05	6.8	白泥による隆起文	大堀相馬 19世紀後葉～20世紀
第22図83	反版8-83	SK4	C	陶器	鉢	-	-	(8.3)	被熱による	大堀相馬 19世紀後葉～20世紀
第22図84	反版8-84	SK4	C	ガラス	ランブホヤ?	2.0	-	-	-	不明 19世紀後葉
第22図85	反版8-85	I 层	C	磁器	染付蓋	8.8	上部3.4	2.5	内面：菱形文、見込み：「大化年制」、外面：牡丹唐草文、高台	肥前 19世紀前葉
第22図86	反版8-86	I 层	C	磁器	染付環	10.1	3.8	6.0	内面：菱形字	肥前 19世紀前葉
第22図87	反版8-87	I 层	C	磁器	染付小环	6.0	3.3	4.4	見込み：草花文、外 面：口サビ、見込み：岩波文、外 面：山水文、	肥前 19世紀前葉
第22図88	反版8-88	I 层	C	磁器	染付小环	7.8	5.6	5.5	口唇：口サビ、見込み：蛇ノ目山形高台	肥前 19世紀前葉
第22図89	反版8-89	I 层	C	磁器	染付小环	7.6	3.4	2.5	見込み：口サビ、見込み：口サビ、見 込み：丸窓文	肥前 19世紀前葉
第22図90	反版8-90	I 层	C	磁器	染付瓶	-	(3.6)	(1.7)	外 面：鶴唐草、蓮弁文	肥前 19世紀前葉
第22図91	反版8-91	I 层	C	磁器	染付瓶	-	-	12.0	内面：墨彈きによる草花文、見込み：コニニヤク印判による五井	肥前 19世紀前葉
第22図92	反版8-92	SK8	C	磁器	染付	(12.1)	(6.4)	2.8	花、外面：唐草文、高台内：銘あり	肥前 18世紀後葉
第22図93	反版8-93	I 层	C	磁器	染付	(15.8)	(8.3)	5.5	内面：梅樹文・草花文、外 面：花唐草文	肥前 17世紀後葉
第23図94	反版9-94	SK16	C	土師質土器	土人形	高さ(4.9)	7.0	3.3	内面：ロクロナデ・系切底	在地 不明 1046
第23図95	反版9-95	SK8	C	土師質土器	土人形	高さ(4.9)	(3.1)	(1.75)	壺形か、	在地 不明 1047
第23図96	反版9-96	I 层	C	陶器	ミニチュア壺	(5.8)	2.9	(3.1)	船形か、	大堀相馬 19世紀前葉
第23図97	反版9-97	I 层	C	陶器	壺	5.4	4.1	5.1	船形か、	大堀相馬 19世紀前葉
第23図98	反版9-98	I 层	C	陶器	壺	(34.0)	-	(7.0)	なまこ輪	大堀相馬 19世紀後葉
第23図99	反版9-99	I 层	C	瓦質土器	風炉?	(24.8)	(21.0)	16.8	半円形の窓あり	大堀相馬 19世紀代
第23図100	反版9-100	I 层	C	瓦	丸瓦	長さ29.3	幅5.0	高さ7.2	中央に縦三引両、左右に唐草文	不明 1048
第23図101	反版9-101	I 层	C	瓦	軒平瓦	瓦頭厚5.3	-	-	中央に縦三引両、左右に唐草文	在地 不明 HO01
第23図102	反版9-102	I 层	C	瓦	-	-	-	-	-	F001

第3表 出土遺物観察表(2)

第IV章 まとめ

第1節 近世・江戸時代 -

今回の第3次調査では、桜ヶ岡公園遺跡の中町段丘上の縁辺部を中心として調査を実施した。調査区A・Cなどでは旧立町小学校校舎や西公園野球場に伴う土地の改変が著しく、その他の調査区についても近代以降の土地の改変により当該期に遡る堆積や整地土、出土遺物や切り合い関係により遺構を明確に把握できたのは、調査区AのSK1、調査区CのSK 8～13、SD14・15・SK16などに限られる。

調査区CのSK 8～13、SD14・15・SK16は出土遺物より18世紀後半～19世紀代の遺構と考えられる。第2図の絵図によれば、18世紀末段階では調査区Cは伊達安房家の拝領地とはなっておらず、小割りされた区画となっていることから、区画を示す屋敷境の溝の可能性がある。

出土遺物は一部17世紀代に遡るものも認められるが、大半は18～19世紀代となる。今回の調査で最も古相を示すのは調査区Aの旧立町小学校基礎跡及びその周囲より出土した瀬戸美濃（第21図74・図版9出土遺物(4)－1）である。全て志野或いは志野織部で一部に鉄絵を施す。いずれも細片で当該期の遺構に伴うものではなく2次的な移動によるものであるが、17世紀前葉を下限とする。

各調査区の出土遺物（第4表）を見ると、全体的な傾向としては西側に移るほど遺物出土量は減少する。調査区CやNo. 21からの出土が多く、特に調査区No. 21は調査面積が4m²という僅かな調査区にも関わらず429点の近世遺物が出土し、面積あたりの出土遺物量としては他の調査区を圧倒する。磁器は全体の約4割に達し最も遺物量が多く、いわゆるくらわんか手といわれる厚手の碗や皿が一定量含まれる。磁器の中には焼継されたものがある（第18図4や第22図91・93など）が、いずれも寛政年間（1789～1801）に広まったとされる鉛ガラスを用いたものである（財団法人 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館 1999）。このことから、第22図93の皿などは約1世紀に渡って伝世したと考えられる。また、特筆する遺物としては、調査区Cより出土した中心飾りに縦三引両の家紋の入った軒平瓦（第23図102）がある。簡略化された唐草の出現が棟瓦の出現以後と考えられることや、第2図より調査区Cが亘理伊達家の屋敷地となるのは19世紀以降であることから、この軒平瓦についても亘理伊達家の屋敷地となった折に葺かれたものと考えられる。

第2節 近代・明治・大正時代 -

当該期の遺構として、調査区A東側及び調査区C西壁で確認した建物基礎跡がある。旧立町小学校校舎に伴う基礎跡と考えられ、特にA地区では重複関係により、少なくとも2時期の基礎跡があった。いずれも1辺約1m四方の方形の掘形で、約1間の間隔で配置されている。掘形内には0.3～0.5m大の大型の礫を中心に据え、その周囲にこぶし大程度の小礫を充填させる。切り合いのある新しい方の基礎には長方形のコンクリートブロックを礎板として掘形の底面に据えたものもある。

当該期の遺物としては、調査区CのSK 4より「公園 六 畠」「十六年 五 畠」と墨書された徳利を含む遺物が出土した（第22図79～84）。桜ヶ岡公園の開園となる明治7年から立町小学校が建設される明治27年以前の時代幅におさまると考えられる。この他、調査区Bを中心として当時公園内に存在した「公会堂」銘の皿や、大正天皇即位記念の皿などが出土した。

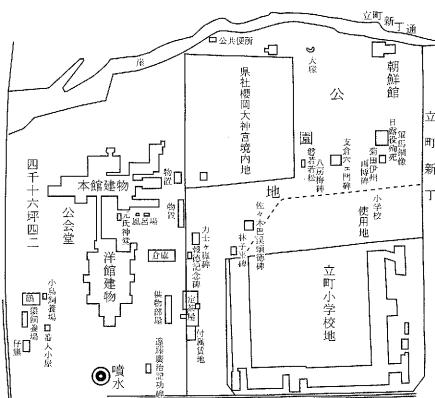
第3節 現代・昭和 -

当該期の遺構として、調査区Aで5箇所（SX 3～7）、調査区Cで2箇所（SX 1・20）を確認した。幅約1m前後、長さ約4m前後、深さ約1m前後の溝状に掘削された土坑で、被熱により壁面が赤褐色化しており、ま

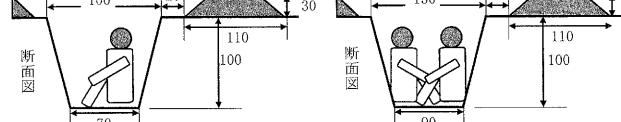
た埋土には多量の瓦等を廃棄するといった共通する特徴を有する。すべての遺構の壁面には相当量の可燃物で赤褐色に被熱した痕跡がみられ、堆積物底部には炭化物層と灰層が層状に堆積していた。また、土坑内に埋設していた廃棄物は、その殆どが多量の瓦で、釘類、鉄線、陶磁器（近・現代）、碍子、ガラス類等が混在して堆積し、中には熱で溶解して変形したガラスが瓦に付着したものもあった。これらは、旧立町小学校校舎の部材である可能性が高い。

これらの土坑の性格については、次のような事実からも推測できる。昭和17年（1942）仙台市立立町国民学校に入学した方の話によれば、2年生（昭和18年）の時に、北校舎1階（調査区Aに相当）の教室で勉強し、教室のたたみ一畳程の床板をはずすと、その下に「防空壕」があったと言う。また、昭和18年8月1日発行の「仙臺市公報第200号」には、『必ず待避所を各戸に造りませうー敵機の空襲なんぞ恐るべきー』のタイトルで「第五、國民學校防空待避所設置ニ關シ援助ノ件（學務課提出） 現下の防空情勢に鑑み國民學校に於ては全児童職員を収容し得べき待避所設置を要することとなりたるが短期間に完備せざるべからず然るに資材人夫共に之を求むること困難なるの實情なるを以って各學校保護者會及公會等に於て援助し速に完成し児童をして些の不安なからしむ様特に配慮せられたし』という記事とともに、「待避所」の詳細な平・断面図が掲載されている。（第25図）この平・断面図に描かれた待避所の形態や寸法は、調査区Aで検出された土坑に近似している。

以上の事実を勘案すると、調査区Aの土坑は、所謂待避所であった可能性が高い。



第24図 桜ヶ岡公園平面図



第25図 待避所模式図

調査区名	近代以降							近世							
	磁器	陶器	土師質土器	瓦質土器	ガラス	金属製品	その他	その他備考	磁器	陶器	土師質土器	瓦質土器	金属製品	その他	その他備考
A	71	15	1	0	10	2	11	瓦×10.硯×1	65	135	57	0	47	7	瓦×3.石×4
B	74	55	1	1	10	1	6	瓦×6	80	15	5	0	0	1	瓦×1
C	403	55	3	1	11	34	15	瓦×7.硯×2.石×1.貝×5	244	111	44	23	5	7	瓦×6.土製品×1
No.4	5	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0	0	
No.6	0	0	0	0	1	0	1	瓦×1	0	0	0	0	0	0	
No.9	3	1	0	0	0	0	0		9	1	0	0	0	0	
No.12	1	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
No.14	1	1	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
No.18	3	0	0	0	0	0	0		1	1	0	0	0	1	瓦×1
No.19	37	16	0	0	1	1	0		19	10	0	2	0	0	
No.20	4	1	0	0	1	0	2	瓦×1.スレート×1	1	2	1	0	0	0	
No.21	8	2	0	0	0	0	0		170	154	33	27	35	10	瓦×8.鎧甲×2
No.22	0	0	0	0	0	0	0		0	0	1	0	1	0	
No.27	5	1	0	0	0	0	0		10	4	0	0	0	0	
No.28	2	4	0	0	0	1	1	瓦×1	6	4	1	0	0	0	
No.29	0	1	0	0	1	1	0		6	4	2	1	0	3	瓦×3
No.33.34	3	0	0	0	0	0	0		3	4	1	0	0	0	
No.37	9	0	0	0	5	9	5	石×4.レンガ×1	3	2	0	0	0	0	
No.38	8	3	1	0	1	0	0		3	1	0	0	0	0	

第4表 調査区別出土遺物一覧表

注

- (1) 第2図で用いた地図は、今野印刷 1994 『絵図・地図による仙台』及び2005 『絵図・地図による仙台第二輯』の一部を転載・加筆したもので、東側の公園通りが水平になるように角度を変更し、大通りと広瀬通の幅を基準に縮尺を合わせた。
- (2) 2007年に実施した第2次調査では、近代以降の堆積について、Ia層：現表土、Ib層：グラウンド・公園の整備砂層、II層：仙台空襲に関連すると考えられる瓦礫・焼土層、III層：旧立町小学校の造成に關係すると考えられる整地砂層に細別を行っているが、今回の第3次調査では調査範囲が2次調査時よりも広く、特に調査区No.1～9や35～38など旧立町小学校からも距離があり、複数にわたる整地層が確認できるなど、その全ての層を捉えることは困難であり、今回の調査ではこれらを全てI層中に含めた。

引用・参考文献

- 今野印刷 1994年『絵図・地図による仙台』
- 今野印刷 2005年『絵図・地図による仙台第二輯』
- 江戸遺跡研究会編 2001年『図説江戸考古学研究辞典』柏書房
- 菊地勝之助 1972年（昭和47）『宮城縣郷土史年表』宝文堂
- 財団法人京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館 1999年「生産・技術6 焼継」『リーフレット京都No.128』
- 財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター 2006年『江戸時代の焼物・生産と流通-』
- 平成18年度財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター企画展示図録
- 仙台市教育委員会 2005年『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査（1）概要報告書』仙台市文化財調査報告書第289集
- 仙台市教育委員会 2007年『桜ヶ岡公園遺跡 - 第2次調査報告書 - 』仙台市文化財調査報告書第318集
- 仙臺市史編纂委員會 1951年（昭和26）『仙臺市史4 別篇2』
- 仙臺市史編纂委員會 1955年（昭和30）『仙臺市史2 本篇2』
- 仙台市史編さん委員会 1997年『仙台市史 特別編4 市民生活』
- 仙台市史編さん委員会 2003年『仙台市史 通史編4 近世2』
- 仙台商業高等学校百年史編纂部会 1996年『仙商百年史』
- 仙台市立木町通小学校 1974年（昭和49）仙台市立木町通小学校100年史『培根』
- 仙台市立立町小学校開校120周年記念事業実行委員会 1994年 仙台市立立町小学校開校120周年記念誌『琢玉』
- 仙臺市役所 1943年（昭和18年8月1日）『仙臺市公報 第200号』
- 宮城県宮崎町教育委員会 1990年『切込窯跡・近世磁器窯跡の調査 - 』宮崎町文化財調査報告書第3集
- 歴史的町名等活用推進委員会 2002年『城下町仙台を歩く 歴史的町名ハンドブック』仙台市

写真図版



1. 全景（西から）



2. 全景（東から）



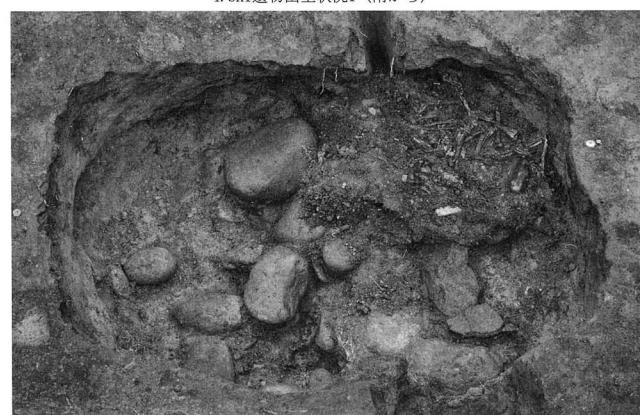
3. SX6完掘状況（北から）



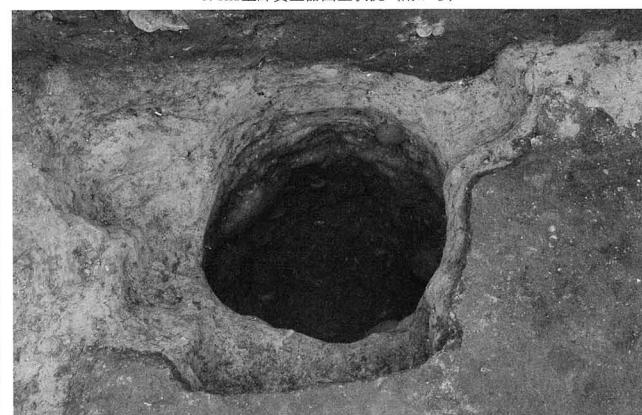
4. SK1遺物出土状況1（南から）



5. SK1土師質土器出土状況（南から）



6. SK1遺物出土状況2（南から）



7. SX2完掘状況（南から）

図版1 調査区A



1. U5~T8グリッド（西から）



2. S8~S12グリッド（西から）



3. S12~S15グリッド（西から）

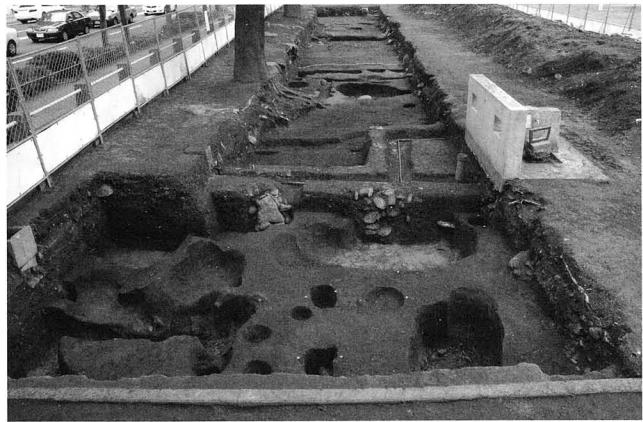


4. S15~T19グリッド（西から）

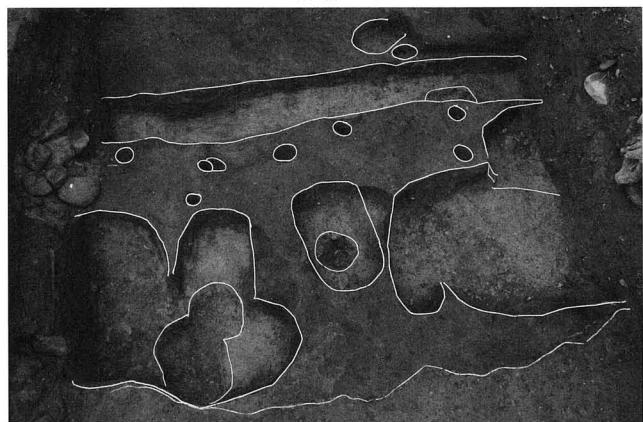
図版2 調査区B



1. 全景（南から）



2. 全景（北から）



3. SK8~13・SD14（南から）



4. SK8・SD14土層（東から）



5. SD15・SK16（東から）



6. SD15・SK16（北西から）



7. SD15・SK16土層（西から）



8. SX1土層（西から）

図版3 調査区C



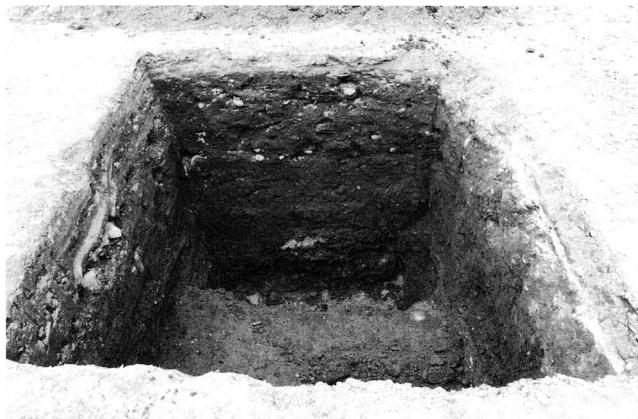
1. 調査区No. 9（北から）



2. 調査区No. 14（西から）



3. 調査区No. 18（西から）



4. 調査区No. 21（南から）



5. 調査区No. 22（北から）



6. 調査区No. 24（東から）



7. 調査区No. 25（東から）



8. 調査区No. 27（東から）

図版4 調査区No. 14~27



1. 調査区No. 28 (南から)



2. 調査区No. 29 (東から)



3. 調査区No. 33 (西から)



4. 調査区No. 34・35 (南から)



5. 調査区No. 37 SK1遺物出土状況 (南から)



6. 調査区No. 37 SK1遺物出土状況細部 (南から)

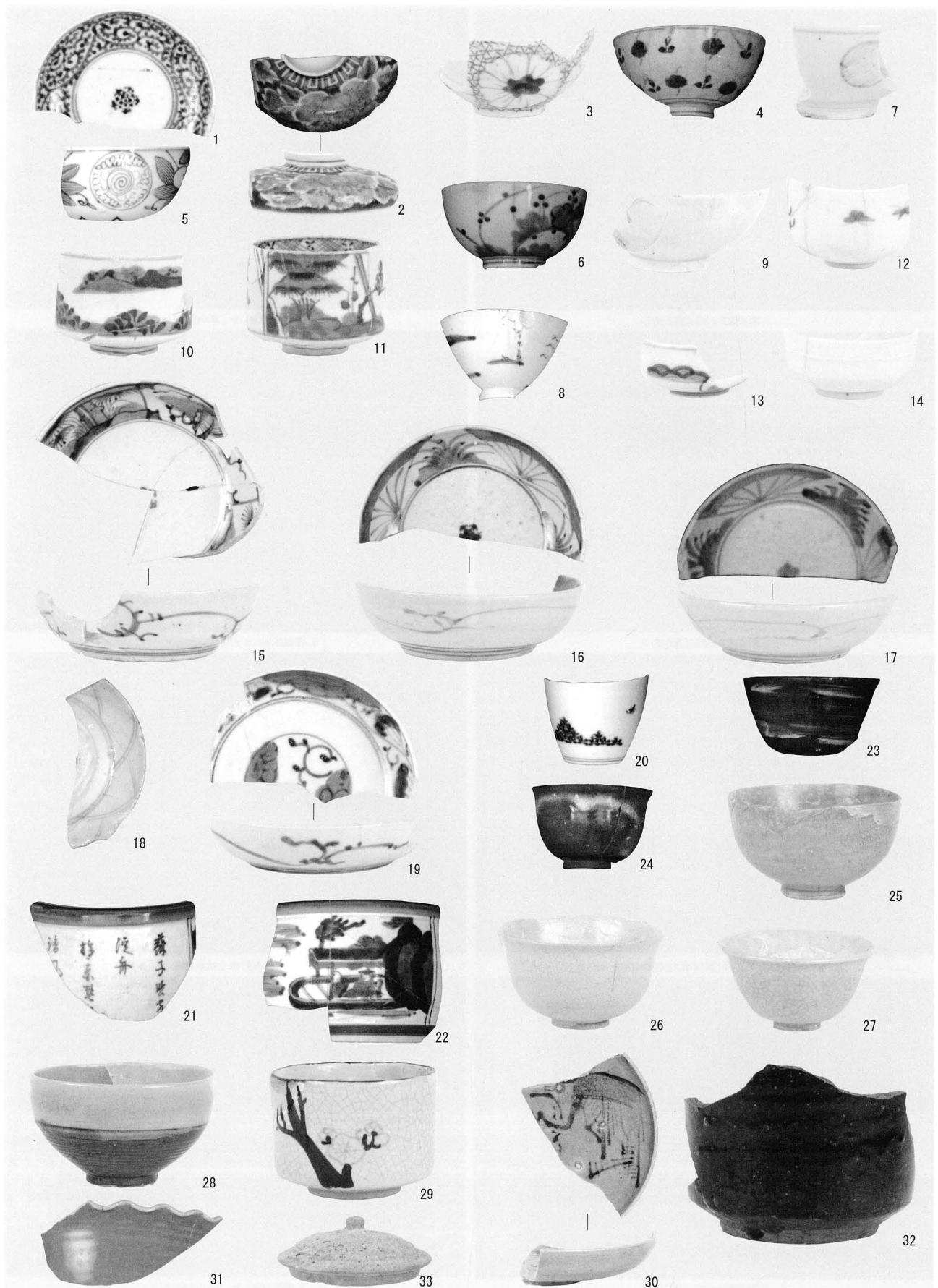


7. 調査区No. 37 (南から)

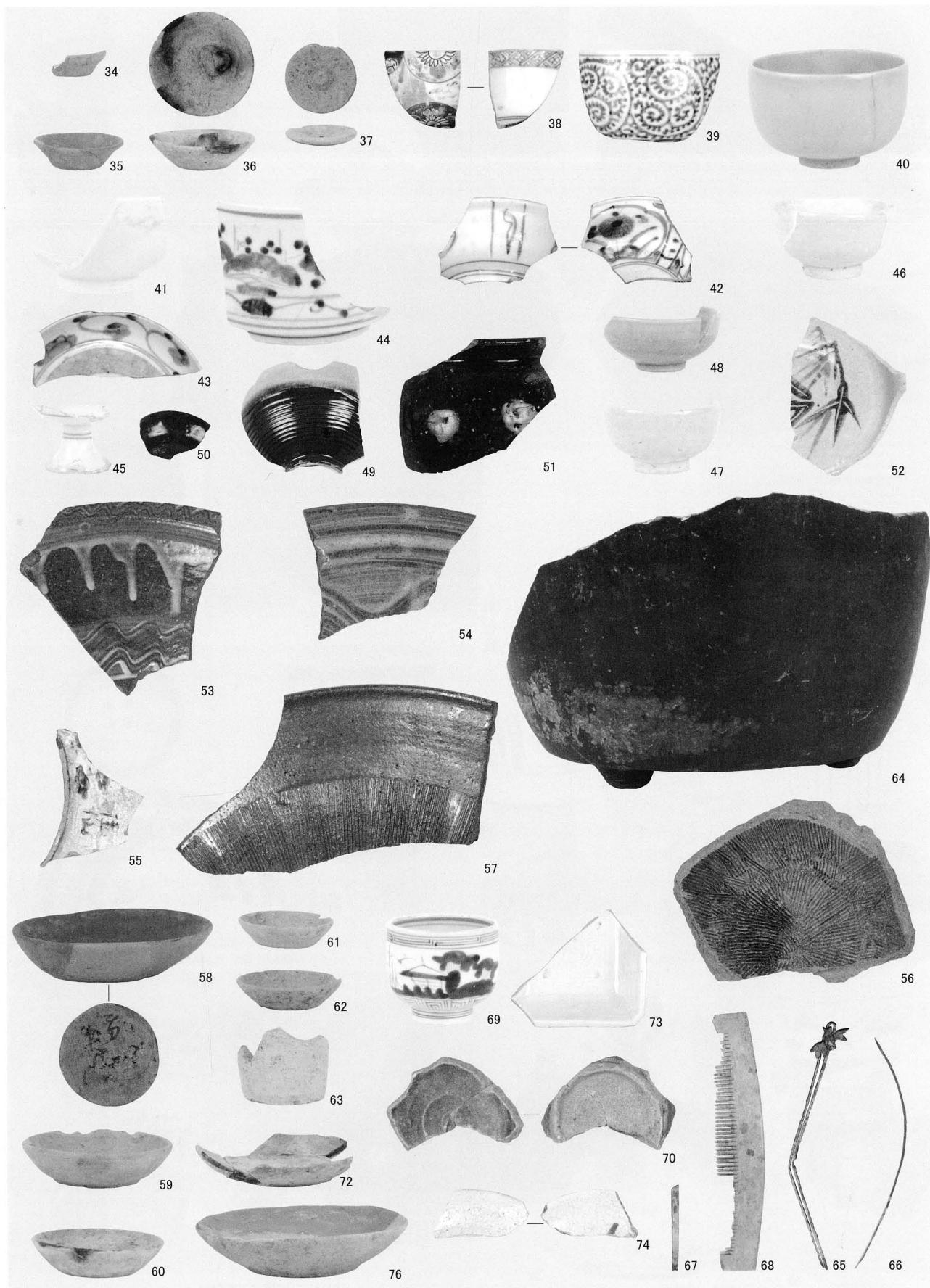


8. 調査区No. 38 (南から)

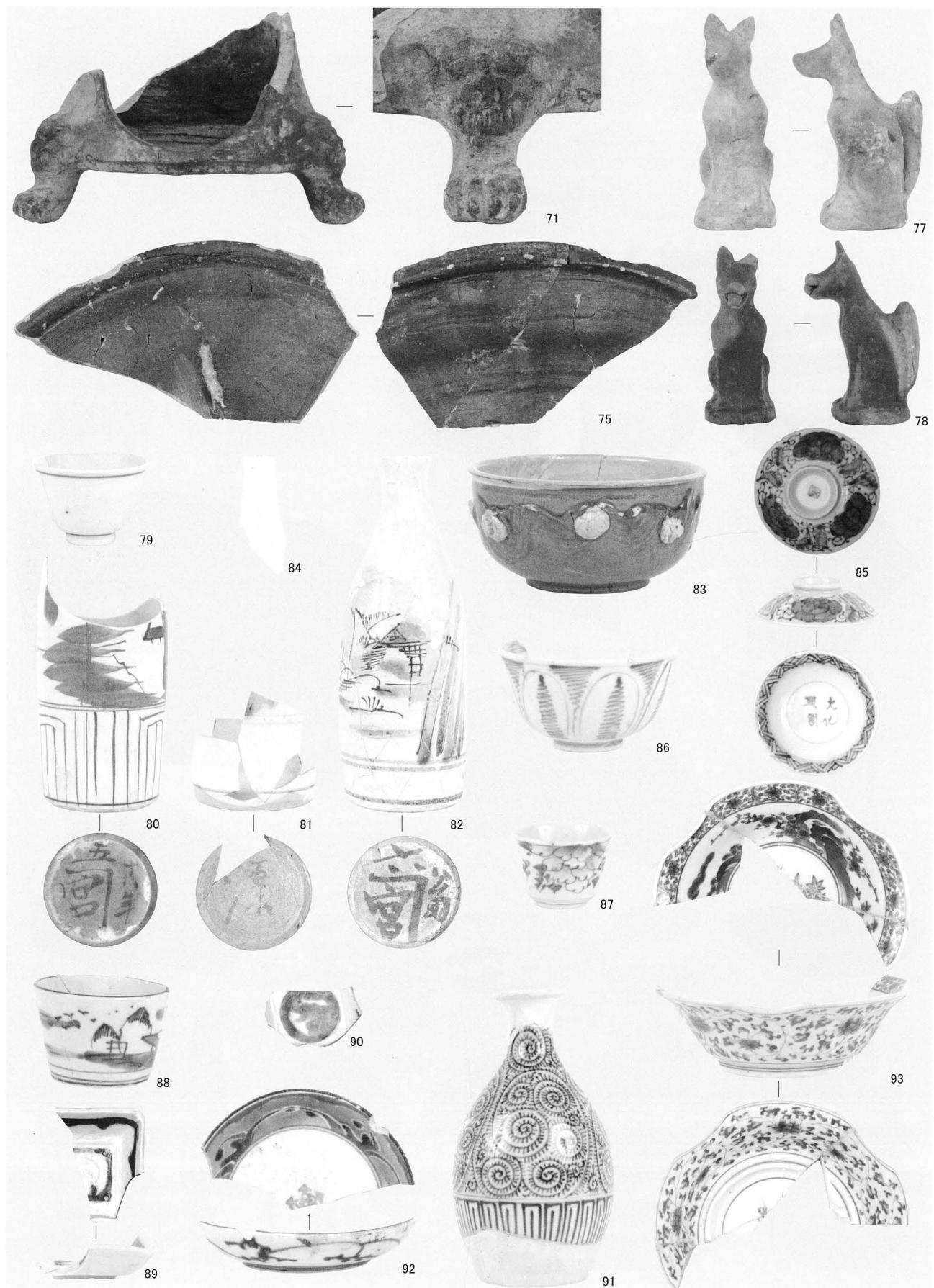
図版5 調査区No. 28～38



图版6 出土遗物(1)



図版7 出土遺物(2)



图版8 出土遗物(3)



図版9 出土遺物(4)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	さくらがおかこうえんいせき							
書名	桜ヶ岡公園遺跡							
副書名	第3次発掘調査報告書							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第335集							
編著者名	原河英二、工藤慶次郎、阿部将樹、伊藤雅和、高野裕二、田中寿明							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7-1 電話022-214-8893~4							
発行年月日	2008年12月12日							
所収遺跡名	所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さくらがおかこうえん 桜ヶ岡公園 いせき 遺跡	せんだいしあおばく 仙台市青葉区 さくらがおかこうえんちない 桜ヶ岡公園地内	04100	01562	38° 15' 36"	140° 51' 45"	2008.06.16 ~ 2008.09.12	740.8m ²	西公園再整備事業
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	武家屋敷	近世	土坑 溝 ピット	陶器、磁器 土師質土器 瓦質土器、瓦類 金属製品				

仙台市文化財調査報告書第335集

桜ヶ岡公園遺跡

- 第3次発掘調査報告書 -

2008年12月

発行 仙台市教育委員会
仙台市青葉区国分町三丁目7-1
文化財課 022-214-8893~4

印刷 株式会社富山フォーム印刷

富山県富山市黒崎173-1

076-492-5565

